



フォックスの撮影日記 その二

はじめに

私が日常趣味としてしているものや、撮影旅行時の春夏秋冬の出来事、また、日常生活の中で実際に体験したノンフィクションの怖い、不思議な出来事や、今までSNSにブログとして書いたものを披露するものです。

二〇〇五年からの一のブログに続き、今回二〇十三年からその二も全て私が体験したのですが、日常の出来事も実際に遇った怖い不思議なシリーズを含めユニークにまとめましたので読んで頂ければ幸いです。

フォックス

フォックスの撮影日記

目次

度違反と探知レーダー

白鳥の湖、いや田んぼ

真冬のヘビ

こけら落とし

彼岸に情事は慎め

深山巴の宿

最近の神社、撮影事情

我が家の弁財天

桃源郷

S D、三十二GB、六十六%オフの日

クイズ、サトウ君とタケダ君

目に青葉、わが畑では無農薬

フォックス県境に行く

今朝のニュース

クック二その後

信号無視

しあわせ神社を参拝して

萌え、金環日食

早起きは三文のトーク

目に青葉、蛙飛び込む水の音

アジサイ覗き見

こわい話

涼しい話

怖い話その一

怖い話、精神修行

ゴーストバスター

蜂に刺される悲劇

怖かった話

怖くない写真

不幸続きは茅(カヤ)が育つ

百日紅(サルスベリ)

漢方、山草樹木

将来の大物カップ

レンゲシヨウマ

忍ちゃん

ミノムシ(蓑虫)

オオスズメバチ

マツタケ

真夜中の重散歩

またある日、看板取り壊し

真夏の青年

インフルエンザ予防接種の日

フォックスヌーボ

赤城自然園、紅葉

狩猟解禁と腹痛薬

不時着、無事着、無頓着

写真が動く

ゴミステーションの女

金神様と姫金神

真冬のボタン

ポリ袋調理法

雷電神社のお話し

隕石

ストリートビュー

誘惑

アニコ屋の店先

鳥の被害、災難

交通安全週間

桜の品種が分かりません

選挙

棒に振った良い話

火事です 火事です

花に拍手を下さい。

ジモティー

土用の丑の日

セミの脱皮

リターンライダー

抜歯の日

ウドンゲの花

NHKのど自慢

梅雨時の一コマ

もしかしてパートⅡ

子猫の悲劇

水道管の破裂

百日紅(さるすべり)Ⅱ

山帰来(サンキライ)

木天蓼(マタタビ)

弟切草(オトギリソウ)

フォックスの撮影日記

速度違反と探知レーダー

先日、家の近所で車での走行中、速度違反で止められてしまった。毎日走る慣れた道だけど、なぜか春を待ちわびてか、はたまた浮かれていたのか、速度が出てしまった。

弁解ではないが、探知レーダーが故障していた

そろそろ購入しようと、考えていたその矢先だった。

友達が「罰金を一度納めた、と思えば買えるから・・・」の言葉が何度も何度も甦る・・・こんな今年になって初めてだ。

あくる日、オークションで探知レーダーを落札した。

でもアダプターと二つでセットにすると凄く優れものらしい。

GPS機能はもちろん、全国の交通取り締まり、検問情報や場所、オービスや、駐車禁止区域、車上狙い多発地域まで出てくるナビとはまた違った機能を持っていて本当に素晴らしい。

二日後にアダプターも購入することにして支払いを済ませた。

お問い合わせ番号を見るとなんと、二二〇二二二〇〇二と二が多い
そこで面白いので二〇十二年二月二十二日の二時二十二分二十二秒頃に
お問い合わせを試してみた。やはり二が重なるものですね。
すると荷（二）の関係で我が家に二番目に来ることになった。
宅配業者が二（二）ンヤリとか二（二）コッとはしないだろうが。

反省

やはり焦っていたのか速度が出てしまった様だ。
今後は安全運転に努めて車を運転する様にします。
春を待ちわびて、心が浮かれているそのあなた。
次はあなたが検挙される番ですよ。お気を付けてください。
それにしてもあまりにも二が重なったのでびっくり、罰金が二万円で、
二点減点ということにはならなかったがいやはや、苦（二）笑いですね。
一度あることは二度ある近々もう一度つかまりそうです。
その時は逃（二）げようなんて思いません。
二の足を踏まない様に気を付けます。

白鳥の湖、いや田んぼ

渡り鳥のコハクチョウが二羽、田んぼの中にいた。いつもの年なら二月の初めの頃にはシベリア方面へと帰って行くのだろうが、なぜ田んぼにいるのだろう。湖にいるならわかるけど、なぜ今ここにそれも二羽だけ

さっそくコハクチョウにインタビューしてみた。そこで問題です。さて何番が正解でしょう。



- ① 湖を出発して疲れたために田んぼで休んでいた。
- ② 体調不良で途中で飛ぶのをあきらめてしまった。
- ③ 帰りの方向を見失って一時的にストップした。
- ④ 仲間に先に旅立たれたので遅れを取ってしまった。
- ⑤ 今年は寒いのでまだ早いと思い引き返そうとした。
- ⑥ どうしてもお腹がすいて食べ物を探しに降りた。
- ⑦ 田んぼを水辺と勘違いしてうっかり降りてしまった。
- ⑧ 人間に注目されようと水の無い田んぼで泳いでいた。
- ⑨ 二羽が恋愛し逃避行の結果田んぼに降りてしまった。
- ⑩ 私に写真を撮ってもらおうと田んぼで待っていた。

真冬のヘビ

なにか推理小説のタイトルのようですが、私の記事はすべてノンフィクションです。私の先輩が二年前の十二月にヘビを見かけたというのです。そんなばかな・・・

ご存知の様にヘビは冬眠する動物。特に自然に生息する爬虫類は秋の彼岸過ぎに冬眠に入り、春の彼岸過ぎに冬眠から覚めると今まで四十五年間思い続けてきました。今ではヘビを見かけることすらあまりないのにそれも真冬に土の中から出て来るとは、自然界や生態系が一体どうなっているのか・・・

先輩が二年前の冬にヘビを見かけた後に震災が発生しました。実は私も今年の正月にヘビを見かけました。

そして先日、二月二十九日この日はわが地方でも雪が降り、かなりの積雪でしたが、その雪の積もる木の根元に一匹のヘビがいて、それをモズが頭をつついて戦っていたのです。

地震との関係があるのでしょいか。カエルだって落ち着いて冬眠してられない。

こけら落とし

一眼レフだと何かと重かったり準備があったり都合の悪いこともあるので胸のポケットに入る小さなコンパクトデジカメを買った。最初の日はいれしくて一緒に抱いて寝た。これでいざという時にすぐにシャッターを切ることができるので活躍してくれそうだ。



先週撮影に行った紅梅も、今週はさぞかし綺麗に咲いているだろうと、さっそくこのカメラの取説を眺めていた。その前になぜ卵の写真！！・・・それは撮影に出発しようとした直前コッコッコッ コケッコおー

我が家のアローカナ（鶏）自分の産んだ卵を撮影してほしいのか、クック１に続き、クック２が初めて卵を産んだ。右の卵それがこれだワンツウー
まさか初めての撮影がクックの卵になるなんて・・・

まあ、紅梅もいよいよ見頃となってきた。初めてのアローカナの卵は細長かったが紅梅の咲く公園にはかなり勾配があった。

彼岸に情事は慎め

この冬は寒かった。しかし、もう春の彼岸がやって来た。

「彼岸に情事は慎め」

この件に関して今年もまた、言うことを聞いてくれない輩がいる。毎年注意をしているはずだか、この様に毎年、注意を促さなくてはならないのが、残念だ。

若い夫婦がいて幸せに暮らしていた。

ある日のこと不慮の事故で旦那様が亡くなってしまった。

奥様は葬儀も済ませ、やっと旦那様の事を忘れようとしていた。

やがて一年が過ぎ、彼岸がやって来た。

旦那に先立たれた奥様は、その後親しくしている男性と良い仲になり、男性が奥様の家に行き来するようになった。

一方一年前に亡くなった旦那様は、あの世で奥様の事が忘れられなくて日に日に思い出していたそうだ。

あの世では彼岸や盆になると、今まで制限されていた行動範囲が広げられ、

あの世の島の隅々まで行っても良いという暇が出るそうだ。

とがった島の先端に一本の大きな木が生えていて、その木を魂宿樹

（こんしゆくじゅ）と言ひ、そこまで行っても良いと、許可が出されるそうだ。

その木に登り現界を見下ろすことにより、残してきた奥様の姿を鮮明に見る事も出来るらしい。

興味のある人（仏）は盆や彼岸になるのを待っていて、登ったそうだ。

その旦那様も今回はじめて魂宿樹の傍へ行き、てっぺんまで登った。

さっそく奥様がどうしているか心配で、現界を覗いたところ、

なんと奥様は知らない男に抱かれているではないか。

旦那様はびっくりして、先にあの世へ行ったことに後悔したとのこと。

彼岸には先祖を敬う様心がけ、静かに生活した方が良い。

あの世へ先立った人も、なかなか落ち着いていられない様だ。

私が毎年、口をすっぱくして言っているのにもかかわらず、

彼岸に情事にふける輩がいる。残念だ。

深山巴の宿

某サイトで、どんな小さな神社でも日本にある様々な神社を直接巡り参拝し、またそこにまつわる歴史や古来から伝わる由来などを研究し、写真に収めたり勉強する場所がある。

今回私に出されたミッションがその神社へ出向くというもの

かなり前の事、私がまだ駆け出しの修業の頃、霊験あらたかな、ある場所を訪れた。そこは今ではパワースポットとして有名になっっている栃木県にある知る人ぞ知る、泣く子も黙る、巴の宿。正式名は、深山巴の宿。さっそく昨日出かけてみた。

山深く入るので、花粉症だった頃はとても行ける場所ではなかった。巴の宿付近一帯はその昔、日光を開いた勝道上人の修業の場で川の流れも巴の字のごとく流れていて、川底には沢山のコインが投げられて埋まっている。大きな杉の木々に囲まれた祠や石仏・・・

この付近は古峰ヶ原（こぶがはら）と言い、秋になると

ナナカマドや紅葉など綺麗な湿地帯の場所もある。鳥の好きな私は普段見られない鳥と遭遇したり、けっこう当時は楽しかった。

山に入る手前5 Kmには日本武尊が祀られた古峯神社があり、まずはそこで参拝を済ませ、売店に入った。売店のばあちゃんは、すでに私の事は忘れているらしいので万華鏡だけ買って帰った。

そういえば以前に訪れた時に、私が巴の宿（ともえのやど）と言ったら「ともえのしゆく」と言われ、漢字についていけなかった。従って深山巴の宿（じんぜんともえのしゆく）が正式名である。

この一帯は漢字がなかなか難しい、当時の私は古峯神社を

「こみねじんじゃ」と読んでいた。実際には、（ふるみねじんじゃ）古峰ヶ原（こぶがはら）もそうである。

でも、万華鏡や日本武尊の字は読めた。

結局、今回はまだ雪が深くて巴の宿へは行くことが出来なかった。

あつ、これから出向くことがある人は「熊に注意」の字だけは覚えて行った方が良い。



最近の神社、撮影事情

タイトルの割には大した事ではない。

ただ神社へ出向き、参拝して神社の写真を撮って来るだけ今まで風景写真などの撮影の合間に道沿いで見かける神社、そんな神社をめざし最近では撮影に出向いている。

今までの撮影とは違い、いかにその神社を判りやすく表現しより良く撮影しようかと必至である。風景写真やスナップなら、人が入っていても絵にはなるが、神社撮影はそういう訳にはいかない。違う意味で忍耐が必要である。

人が、車が、何か邪魔ものは写りこんでいないか神経を使うのも神社撮影には欠かせない。神社の由緒や歴史に興味を持っていたり理解している人にとっては、もっと楽しく参拝できる様だ。私には無理だ。

先日、栃木県の織姫神社の撮影に出かけてみた。桜のシーズンになったらもう一度撮影してみたいとメモリしていた処である。しかし、いざカメラを向けると風景写真家の自分と、神社撮影家の自分がいてどうしようか迷っている。

そんな撮影も順調に進み神主や巫女さん達の姿も見えてきた。

巫女さんが男前である私に気が付いたのかこちらにやって来た。しかし、私は巫女さんには目もくれなかった。なぜならこの神社の神様からは以前、嫉妬されて大変な事があった。

その頃の噂は

「織姫神社の神様は、やきもち焼きで男女のカップルで行くと」
「必ず別れてしまうんだって」と密かに噂が流れていた。

そうそう、この神様には何度嫉妬をされたことか！！むっ！！



でも、今朝は朝一から美人で可愛い人を見たので織姫神社はあの時の事を私に謝ってくれたのか、そんな事ならブログにしようと書いてみた。

山の中腹にある織姫神社、撮影場所へも重い望遠レンズを担ぎ山を登ったり、人のいない時間帯に撮影に出かけたり、大変

ある時は風景写真家、ある時は神社写真家、ある時は登山家、写真を撮るのにも体力が必要だ。ワールドだろう・・・

我が家の弁財天

布袋、福祿、弁天、毘沙門、恵比寿、大黒、寿老人と、まあ七不思議と、七草、七福神だけはなぜか知っていた。

小学生の頃フォックス君のお母さんは、なんという名前なの？と聞かれた事があり、私はその都度、うん外人みたいな名前だよとか、かなり柔らかそうな名前だよ、等と言っていた。母親の名前はカタカタで「ベン」と書く、便ではない。

最近になって名前の由来を聞いたところ、その語源は「弁」だという。

母親は七人兄弟の一番末っ子で、生まれる時に難産で生まれてきたという。

当時近所の村人達が集まって、何とか健康に生まれ育つ様にと産土の神社へ、お百度参りをして頂いた結果に生まれて来たという。

その時に父親が六人の息子兄達がいて娘が一人では七福神だと言い、末に生まれた、たった一人の娘を弁財天にちなんでベンという名前を付けたという。私の母親にはその頃から弁財天の力が宿っていた様だ。

弁財天とは言ったものの、母親はそんなに美人でもないけど、琵琶も弾かないし、風邪もひかない。そういえば気のせいかな、布袋様に似ている様な伯父さんや、福祿寿に似ている伯父さんもいた。

写真は弁財天とは全然関係ないけど、赤城神社と亀岡神社。



桃源郷

いよいよゴールデンウィークに入った。写真撮影していると春が待ち遠しい。今年はずかしたのか春の花も遅れていた。雪の中から福寿草、梅、桃、片栗、そして桜、わが地方のこれから五月は藤、ツツジが咲き乱れる。

ある時、桃源郷なる処で桃の花を撮影した。見渡す限り一面、桃の花、花、花。

それも高台からハイアングルで構図も良く素晴らしく桃の花の美しさを引き出せる写真が沢山撮れた。その日は天気も良く暖かくて撮影日和でなんとも夢を見ている様な撮影だった。

しかし撮影出来たのはその一年だけで、あとは何度行ってもその桃源郷へは辿り着く事が出来なかった。次の年から三年ほど同じ場所を求めて行ってみたが、同じ場所へは二度と行くことが出来なかった。それでもフィルムにはちゃんと素晴らしい写真は残っているのだ。まさにそこは桃源郷だった。まさか私の頭が頭眩境ではないと思うが・・・

もう十年以上経っているが、先日写真撮影仲間にそのことを話した。すると彼らは山梨県に、その桃源郷なる処がちゃんと存在するということのだ。あれは私の勘違いか、夢か幻か。桃源郷、健忘症、字は違うがイントネーションが何となく似ている。いや、似ていない。



S D、三十二GB、六十六%オフの日

昨日チラシを見て近所のPCショップへ行った。

S Dメモリが安い。書き込み速度も十で高速、おまけに永久保証・・・さっそく店内に入った。以前にもこの店でハードディスクを買うのに早朝から並んだ事がある。今回の商品は全店舗五百個限定で、この店の限定は三十個だという。

早速ワゴンの中から五個を持ってレジに向かった。

「お客様、この商品はおひとり様一個限りです」結局一個しか買えなかった。何とかレジの担当者が交替しないかと、何度もレジの方を見ているとどうしても警備員と目が合ってしまう。仕方なく友達の方へ電話をして来てもらう事にした。そうしているうちにもまた一個売れてしまった。友達が来るまで時間を持て余し、もうすでに一時間が経過している。

他の売り場へ行き商品棚の商品を見ているとどこかの爺さんも隣でS Dを見ているので、私は店員ではないけど話しかけてみた。

「爺さん、今日ならワゴンのS D安いよ」とすると爺さんは明日売出しの

マイクロSDが二個欲しいという。奥さんも携帯で写真を多く撮るので、絶対に二個欲しいという。私もひとり一個しか買えなかったので、
「爺さん、私の分SD買って貰えないですか」と言うと、すぐにOKして買ってくれた。結局五個は買えなかったけど爺さんと友達のおかげでやっと三個はゲットできた。

私は爺さんに何度もお礼を言い、申し訳ないので

「爺さん俺、明日ここへ来るから今度は奥さんの分一個買うの手伝ってあげるよ」と約束してやった。爺さんはすごく喜んで笑顔で私を見ていた。家から自転車で来たというので駐輪場まで送って行った。

するとかなり年季の入ったキーガタサービー号の自転車にまたがり「家はここから十五分くらいだから」と言い笑顔で私に手を振りながら帰って行った。

さっそく本日、私は昨日と同じ時間帯頃PCショップへ行った。

店の中を探してみたが、爺さんの姿はなく、合うことが出来ない。

それどころかマイクロSDがあと四個しかない。駐輪場へ行ってみたが、

キーガタサービー号も見当たらない。もうすでに五分も待ってしまった。もう一度店内を探したが爺さんの姿は見当たらない。遠くの方からワゴンを見たがSDも見えなかった。様な気がする。

結局十分も待ってみたが爺さん現れなかった。私は後ろ髪をひかれる
思いで、家へ帰って来たがきつとあの爺さんの事だ。

私が現れる前にマイクロSD、二個ゲットしたに違いない。

クイズ、サトウ君とタケダ君

なぜ、雨の日に我が家にいるの、それも誰が連れて来たの。

雨が嫌いじゃなかったの、いったいどこから入ってきたの？

以前に私に咬みついた事あるよね。あの時は痛かったよ。

でも四メートルも上から落ちた時、無傷だなんて考えられないよ。

その細い足が折れても私には治療することが出来ないぜ。

ええーっ、チョークで線をひかれると嫌なのか、なぜ？

三頭身？しかし頭が大きいね。動植物園にいた事あるよね。

甘いものが好きらしいけど、あなたの体はピリ辛いよ。

暗いところが平気な割には地獄が怖いのか。ゴムも嫌い？

しかし、体重凄いだろうな、その前に簡単に測れるか？

竹に登ると危ないよ。最近、君の仲間は冬眠しないのか？

仲間が多いんだよね。世界中ではかなりの数だと思うよ。

君の仲間にはなぜかトゲがあるのもあるね。いるね。

これからは君のシーズン、白よりも黒のほうが多いな。

結婚飛行、ますます怪しい、いったいお前は誰なんだ。

目に青葉、わが畑では無農薬

有機栽培、無農薬でわが畑も活躍している。とは言ったものの一方では草に負けじと本年度のハーブも新芽をのぞかせている。スペアミント、レモンバーム、ローズマリー、カモミール・・・

以前にもブログに登場した様にニワトリの卵も何とか自給できないものかと六年ほど前から飼い始めたアローカナ(鶏)ご存じの様に青緑の卵で、栄養価が高く、コレステロール値が低い逸品。最近には私にもやっと慣れてきて今ではコッコーと呼ぶと、こちらに走ってくる様になった。

しかし、最近クック二の様子がおかしい。私と目と目が合うとなぜかそらしてしまう。きっと何かをたくらんでいるに違いない。そんなある日防犯カメラの映像を見ていたら何と放し飼いにされている小屋から抜け出して金網の隅で腰を下ろしているではないか。たしかトイレは反対側なので違うとは思いますが、早速行ってみた。

すると腰を下ろしている下に卵が六個もあるではないか。我が家のエンゲル係数から行くと丁度マイナス六が当てはまる。

これだ、どおりでクック二は朝の食事タイムには顔を出しているものの午後になると金網の外から帰って来る不思議な行動をとっていた理由がわかった。

クック二は勉強不足でその卵が無精卵だという事がどうも理解されていない様だ。思えば二年前に野生の動物による不慮の事故で、オス鶏が他界しているのです。だから・・・

それとも我が家の付近に私に内緒でオス鶏がどこかにいるのか？

私が子供の頃、我が家で飼っていたチャボが十二く十三匹のヒヨコを引き連れて再びデビューしたという事件があった。

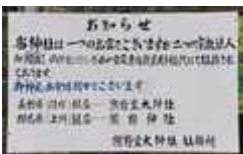
でも今回はそんな訳にはいかないだろう。なにせ無精卵の疑いが濃いものだから。クック達がやってきたこの新緑の季節、今頃になるとクック達にもパートナーが必要な気がする。もう少し経つとオス鶏を連れて来てクック一，二，三とまた騒がしくなりそう、小屋の名前は考えてある。「大奥」にしようと思ったが輸入鳥なので小屋は「ハーレム」という名前になりそうだ。

フォックス県境に行く

私は風景写真の合間に神社の撮影もしている。しかし、本腰を入れて神社撮影を始めたのはほんの一月程度前、日本にはいろんな神社があるそれは五月に入ったら以前から計画して、行ってみようとしていた標高一二〇〇mにある熊野神社、ここはある事を除いてはどこにでもある神社と何ら変わらない。

そのある事とは、群馬県と長野県の境界線上に建てられているのだ。

境内へと続く石段には県境を示す石版が埋まっている。境内の真ん中を境に右が群馬県、左が長野県になっている。沢山ある神社の中で私も初めて見た。



しかも、宗教法人も左右二つに分かれ、宮司さんもそれぞれ左右にいる。

それどころか御朱印はもちろん賽銭箱や、御神籤、お守りまで分かれ、それぞれの風土や文化の違い生活様式までもが左右に覗き見ることが出来る。

詳しいことは判らないが、言われによると鎌倉時代一二九二年群馬県の武士が奉納した釣鐘が残っていて現世と来世の二世安楽を願う信仰の対象となって来たという。

付近には鎌倉時代、源義経一行が東北へと逃れる際、弁慶が書き残したと伝わる歌の石碑、伊達正宗が峠を読んだ歌も看板紹介されている。

文中に二世安楽とあるが私の目的はあくまでも参拝と写真撮影ですから・・・

ニューハーフの人達が活躍する昨今、ある時テレビ番組でオスギとピーコのピーコさんがこんな事を言っていた。

バラエティー番組で、男女に分かれ得点を争うゲームをしようとしていた時、

司会者は「では男性は右側へ、女性は左側へ」すると、すかさずピーコさんは、

「えーっ！じゃーオカマはどっちへ行ったらいいのよ」

「オカマは・・・」と・・・人間もそうですが、

神社も右、左と分かれているのは何か滑稽な感じもあります。

この熊野神社へは、以前にビートルズのジョンレノンも立ち寄ったという。

ジョンレノンが男か女かは別としても。

今朝のニュース

皆さんは朝の目覚ましはどんな音で起きているのでしょうか。

屋根裏のネズミの音、それとも年寄りのクシャミの音、いや、カエルの鳴き声、はたまた自分のイビキの音！。まあ、人それぞれだと思います。

実は私は目覚ましで起きているのです。さわやかな小川のせせらぎ、いや違います。新緑に響く小鳥のさえずり、いやこれも違います。朝はタイマーでラジオがかかるのです。その、今朝の目覚ましの音はラジオです。

「ビックカメラ、コジマ電機を買収」・・・と
スイッチが入ると同時に聞こえてきました。

私も業界一位のヤマダ電機へはよく行きますが、今回のビックカメラがコジマ電機を買収する件も家電やカメラとの関係があるので興味があります。

もちろん地元には、ヤマダ、ビック、コジマそしてケーズデンキと店舗が沢山あります。その後のニュースでもビックとコジマが一緒になると業界でも二位の売り上げの座につくと言われています。

ヤマダ電機、ビックカメラ、そしてフォックスの発祥の地はともに群馬なのです。コジマ電機も隣の県の栃木ですが、地元だけに親近感も生まれてくるものです。

とはいえ東京や大阪に出ていけば、ヨドバシへも向かいます。

今や家電店も電気製品だけではなく、生活用品、食料品までも売っています。

ヤマダは年間の売上げが二兆円だと言っていた。

各店舗でいろんな家電の安売り競争を沢山やって欲しいね。

♪ヤマーダまだまだ安いんだー♪

クックーその後

いよいよ小鳥達が新緑にまみれて待に待った巣作りそして抱卵の季節がやってきた。ヨシキリや、ウグイスの巣に自分の卵を産み付け勞せずして他の鳥に卵を孵して頂く、ずうずうしいカッコウやホトトギスの托卵(たくらん) ふむ・・・

我が家にも何をたくらんでいるのか、未だに無精卵を孵化させようと温めているクック二、困ったものだ。毎日朝になると餌を求めて私の前に姿を現す。そして食事が終わるとまた、卵を温めに帰って行ってしまう。昨日も今日も夜勤、二十四時間体制で勤務をしている。

そんなアジトを先日、防犯カメラで追跡発見したのが今度の第二のアジトは、なんと犬小屋の下だった。犬小屋の下でいくつかの卵を温めているに違いない。

考えてみれば犬の傍なので、外敵からも狙われにくく安全性は確保している。ましてや犬小屋の下なので雨、風、寒さに関することは何の心配も必要ない。ふと、私は時々犬たちも共犯なのかと思う時もある。

しかし大きな問題は無精卵、どう考えても無精卵。例え一年温め続けていても孵化するのは皆無だろう。私が鶏に対する性教育をやらなかった為だろうかいや、そんなことはない。あくまでも本能として無精卵は孵らないということを確認してほしかった。この辺はワイルドだろうーって割り切ってほしい。

強制撤去のXデーまで、あとわずか。何も知らないクック二は、新緑まぶしい今日の日も孵化するの信じて抱卵を続けている。そしてやがて放卵へと・・・
つづく

信号無視

鶏の無精卵、想像妊娠事件、以来、平和な日が幾日か続いた。そんなある日の事、日曜日なので今日は食事を作る気にもならず、そうだお弁当を買って来て食べようと車を走らせた。弁当屋さんのすぐそばの信号機が赤だったので停車していた。二、三分経っても信号はなかなか赤から青にならない。すると一台の車が私の後ろに付き停車した。

ちよつとクラクションが鳴った様な気がしたけど聞こえないふりを、いや、あの時は空耳で聞こえなかったのかも。やがてまた一分くらい経過した。でも信号機は赤のまま、結局私自身は五分くらい停車していたことになるのか。まあ弁当屋さんへ行くのだからあわてることはない。

ふとバックミラーを見たら後ろの車から小学三年生位の女の子が出てきて、私の車の助手席側の窓をたたいた。私は窓を開けた。するとその女の子は窓の外から

「てめえー何やってんだよおー」

「早く行けよおー」

と言われるかと思ったら

「あのおーここは押しボタン信号ですけど」と言う

私はすぐに上を見てセンサーがない事を確認した。

私は信号が赤だとわかっていて無視して走ったのはこれが最初で最後だ。

こういう時に公安委員会や警察に行ってセンサー取付の届けを出すのは私だけだろうか。

しあわせ神社を参拝して

先日しあわせ神社を見つけて参拝した。面白い事に鳥居のそばに赤いボタンがあり無料と書いてある。これは押すしかない。すると

♪幸せなら手を叩こう♪幸せなら手を叩こう♪と

音楽が流れてくる。思わず一拝二礼二拍手一拝手を叩いてみた。

午後になりショッピングセンターへ買い物に行った。すると体が急にだるくなり、宝くじ売り場のそばで足が動かなくなってしまった。宝くじの売り場には幸いお客さんはだれもない。実は私は以前にも同じ様なことがあり、だるい体で宝くじを買った事があった。でもその時、一等賞は当たらなくて1等賞の組違いに終わってしまった。あの時は欲があったから買ってしまった。

宝くじは、もう買わないと心に決めたので帰ろうとしても、まだ足が動かなかった。売り場からは今日からジャンボ発売とか大きな音楽が流れている。そこへ中年のおばちゃんが私の後ろに来た。すると不思議なことに私の足が急に動く様になり

次のショッピングへと行くことが出来た。



しあわせ神社は・私に何が言いたかったのか？この神社は、ある神社の境内社なのだが、本殿には狛犬のある両脇に恵比寿様と大黒様が祀られていた。実はそこにも無料のボタンがあり、押してみた。すると・・

♪大きな袋肩にかけ♪音楽が流れる。

お賽銭投げたら、ご自由にお持ち帰り下さいと書いてあり、大きなタケノコが五本も置いてある。その日は幸せだった様な気がするううー！。

萌え、金環日食

五月度の写真部の撮影タイトルが萌えである。提出期限まであと十日、関東班はおおられている。しかし、この日が来るまでは、いや、何とも私はぜひとも金環日食を提出しようと努力していた。

今朝の撮影があるので、昨夜は夜更かしもせず二時三十分にはすでに眠りについていたのだがなんだか、うれしくて四時に目が覚めてしまった。早速家の庭に、カメラ、三脚と着々と準備が進む朝は気持ちがいい、早起きは三文の徳と言うが三文とは今の百円位らしい、ではその百円程度のブルーマウ、いや、キリマンジャロの珈琲を飲む事にした。モーニングコーヒーかぁー久しぶりだなぁー

例によってコーヒー店が開店したかと近所に勘違いされては困るので、さっそく撮影へと取りかかる。二〇十二年五月二十一日六時二十分〇二秒いよいよ開始
八十六歳の母親にも金環日食は滅多に見られないのでせめてもの冥土の土産になるかと思いついてみた。すると母親は朝食の準備で忙しく、次回の二〇三十年に見るから今回はパスすると言った。母親の長生きの秘訣はどうやらこの辺にある様だ。



七時三十五分二十一秒、金環日食クライマックスとなる。写真がうまく撮れているかどうか心配である。なにせこの様な写真撮影は特殊なので撮り直しがきかない。一発勝負である。写真撮影に関する苦労やノウハウ、詳細は別途報告することにして最終段階へと入ってきた。「萌え、金環日食」

キンコンカンコンキンコンカン九時三十二分〇八秒
終了のチャイムが鳴った。終了。

早起きは三文のトーク

金環日食がきっかけか、早起きになってしまった。早起きは三文のトークというのがはたしてどうなるか。ここ数日、私を取り巻く周辺で、パワーストーン或いは数字やラッキーナンバー、眠気を訴える人、そしてラッキーアイテム等の動きが目立っている。これは何かの良い兆しなのだ。ふむ、きっと何かある。良くない事が続いたのだからもう、そろそろ解放してほしい。

そういえば先日ショッピングセンターの〇くじ売り場で足が止まってしまった事があった。また昨日の朝は真っ赤な神社鳥居の夢を見て目が覚めた。しかし、私の場合は宝〇〇を買うのにはまだ心のラッキーアイテムが、いま一つ揃わない。

それは、大蛇か白蛇の夢だ。六月一日までに夢に現れてくれないと流れてしまう。そんな時は買わない勇氣も必要である。仮に二十一人の友達と分けても千五百万円ずつの山分けた。キツネだって皮算用はできる。

この前は駐車場で靴が落ちたのを拾ってあげたり、エレベーターだってボタンを

押してあげた。神社へ行く道を知らない人に丁寧に道を教えてあげたりコンビニで拾った十一円もちゃんとレジに届けた。金環日食の写真だって寄付もした。

昨日だってレジで順番待ちをしているおばちゃんを先に入れてあげたり色々している。ただ、赤信号で無視はしてしまったけど、あれは押しボタンだ。

別に○クジが買いたいとか当てたい訳ではない。ただ大蛇や白蛇が夢に出て来て欲しいだけなのだ。

いったい蛇たちは何をやっているのだ。たかが夢に出て来るだけなのだから簡単だろうちょっとくらいは時間があるだろう。こっちは睡眠時間が短くなっているのだ。

いい加減にしてほしい。早く夢に出て来い。

はたして早起きは三文の徳となるか得になるか。

目に青葉、蛙飛び込む水の音

Many are over humor hot to gives heart get Ohh!

これはかの有名な、北巢進一氏の名言ですが翻訳すると

「沢山のユーモアをお届けするから、温かいうちにそのハートで掴んで下さい」と
言っています。

嘘です。

初夏を感じさせる今日この頃、我が家の庭も緑でいっぱいです。垣根も青々とした葉っぱが生い茂り散髪を希望している様な・・・
今朝我が家の裏山に畑を持つ人が垣根を刈ってくれた。私が刈るとトラ刈りになってしまいが、ちゃんと刈り上げてある。年に一回だけ刈ってくれるけど一発屋ではなく散髪屋である。

私も早速庭木の梅の木の手入れをしようとした。「桜切るバカ・梅切らぬバカ」昔の人はうまい事を言いますね。

桜の木は切ると切り口から木が腐ってしまうらしい。
しかし梅の木は適度に切らないと梅の実がならない。



という事はジョージ・ワシントンはバカだったのか！

桜の木を切って正直に申し出、褒められたとか私など子供の頃、何度も正直に言った。
でもその都度、親父に叱られて頭にコブを作っていた。

だから今は、もつともつと正直な自分がここにいる。

昨日はホトトギスの鳴き声も聞こえていた、季節だ。
あー、あとはカツオが食べたいけど、海は遠い。
我が家の池、水面に波紋があちこちに見られてきた。

そこで一句

Full it care cow was to be came me with not

アジサイ覗き見

今月の写真部のテーマが「雨」「紫陽花」なので早速アップしました。
アジサイ（紫陽花）英語で調べてみたら

「Hydrangea」

これを見てゴレンジャーを想像した人は古い・・・
ロ－レンジャーを想像した人はもっと古い・・・

雨の季節ですね。雨に合う花アジサイリトマス試験紙の様に土壌のPHにより
花の色が変わるといいます。私の記憶ではリトマス紙とは逆で土壌が酸性で青
アルカリ性で赤の鮮やかな花を咲かせてくれる。梅雨のジメジメした時に頑張って
咲いてくれるがこの季節は何となく嫌なものである。

少年時代に詩を書いて大賞を貰った事がある。その一部を紹介しよう。

「曇った空を見ても俺の心は燃えてはくれない」「でも、明日に晴れる事を知った時は」
「いつしか心の霧も消えてしまう・・・」「そう・・・だから」

「小雨の降る日に心を燃やしている人も何処かに・・・」

あー

カメラマンやノンフィクションではなく

詩人の方が私には合っているみたいだ。今は殆ど死人同然だけど・・・



こわい話

いよいよ怖い話が解禁の様なので、私の数ある体験の中から少しずつ小出しにて披露したいと思います。

つい先日実際にあったこわい話です。

北海道の海鮮問屋から突然電話を頂き、魚の注文を取っているという。聞いてみるとズワイガニ、ホタテの貝柱、イカ塩辛、もずく、イカ沖漬け、ホッケ等が一セットになっているという。

以前に私が北海道を訪れた時の、宅配便の伝票の記録から電話をして来たといい、あのニュースであった夕張メロンの二玉が百万円の値段がついた会社で、今回はそれも祝った特別放出価格でサービスするという。

まあ、我が家にとっては地震以来、東北方面から魚介類が直接買えなくなったので、今回は朗報でもあった。

クールの宅配便が午前中指定なのになかなか商品が届かない。すると積み荷をトラックに積むのを忘れてしまったとの電話。仕方なく次の日の午前中到着の指定で待つことにした。

しかし、次の日の午前中も商品が届くことがなかった。まあ着払いだから余計な心配もご無用だったが、品物が着いたのが午後二時三十分過ぎ、もちろん宅配便にはクレームも言った。こわい話である。

イカ塩辛もこわかった。次回は世にも不思議な怖い恐ろしい話をしたい。

涼しい話

我が家の近所に赤城山がある。こんもりと茂った木々、山道は日が暮るのが早いので午後になったら早めに帰らねばならない。以前、帰り際に撮った写真に、この世のものではない物が写っていた事が何度かあった。クワバラクワバラ早く帰らねば・・・

山道も暗くなると通る車もなくなり寂しいものである。山道を下るのは良いけどまれにこんな時間に山の方へ向かって行く車もある。何をしに行くのだろうか・・・ヘッドライトを点けないと、運転できる状態ではない。

すると後ろから、ブブブーンブブーと三台のバイクが私の車を追い越して行くのです。遊んだ帰りに遅くなってしまったのか、急いでいるかの様にも見えた。しかし三人のバイクの運転手はちゃんとヘルメットを被っているのに最初のバイクに乗っている女性だけがヘルメットも被らずに後ろに乗っていた。危ない！正義感がある私は、その事ばかりが気になっていた。

もうしばらく走るとやがて人家の見える処まで来た。すると街灯が点いていて車が数台止められる広場にさっき私を追い越したバイクの三人が休んでいた。

私も車を止めて最初の運転手の所へ行き、なぜ女性にヘルメットも被らせないで乗せているのか聞いてみた。

すると彼らは三人以外、誰も乗せていないと言う。そこでは女性はいなかったが良く聞くと、さっきまで自殺の名所へ行ったのだが三人とも怖くなって気持ちが悪くなり、早めに退散してきたと言う。

では、私が先ほど目撃した最初のバイクの後ろに乗っていた髪の長い白柄のワンピースの女性は誰だろうと言うと、それは数日前にそこで亡くなった人だと、彼らが言ってきた。

うわぁー ー これは後日談があり、続く

怖い話その一

怖い話のリクエストがあるので一部ブログと重複。

私の実際に遭った怖いシリーズから十七番目の「人だまに誘われて」を今回お話しします。

我が家から姉の家まで車でおよそ一時間かかります。いつも同じ道を走るので、たまに近道をしようと今まで通ったことのない夜道を車で走っていました。

すると人家の少ない河原に出してしまったのです。どうやら道に迷ってしまったらしくこの先どの様に行ったら良いかわからないのです。

前方を見ると二十センチ位の人だまが飛んで行くのです。時々霊も困っている人を助けてくれるので、私はその人だまの後に付いて行き車を走らせたのです。

しかし行けども行けども人里離れた寂しい方向へ行くだけで、また河原の方へと出て行ってしまいとうとう道が狭くなり行き止まりになったのです。

道案内の人だまの方を見るとすでに消えてしまい何の役にも立ちません。

仕方なく河原の手前の家まで車をバックで走らせ、その家の庭で車をＵターンさせてもらったのです。もと来た道へ戻ろうとし、その家の玄関を見たら

「忌中」と紙に書いてあったのです。

怖い話、精神修行

実際に遭った怖いシリーズ五からの精神修行です。

ドラマ化を計画していたので披露をためらったのですが今回ののは長いです。よろしくお願い致します。

私が空手道の指導員をしていた頃、自分の先生に誘われて精神修行なるものを経験した時の話です。

それは深夜に数人で山歩きをするというもので、歩き始めから終りまで一切言葉を交わしてはならないという約束事がある無言の行です。

栃木県の足利市にある行道山のけもの道を歩き、無言で頂上まで行き無言で下山するというもの。

緊急用に懐中電灯は持っていくが、修行中は一切点けない。耳を便りに音と研ぎ澄まされた勘だけを頼りにひたすら歩くだけ。

参加者はまず今回私に修業を薦めたS先生。お寺の住職、古武道の先生

そして私フォックス。今回はこの男達四人で修行をする事になった。修行が終わるのが三時ごろだと聞いていたので、終わってから食べてもいいと思いS先生と私はコンビニから四人分おにぎりを買って背負って出かけた。

夜十二時に行道山のふもとに集合したが、すでに三人来ていて全部で五人になってしまった。背負ったおにぎりは四人分しかない。

たしか全部で四人と聞いていたが一人分足りない。仕方なく私が我慢するしかない。すでに集合した時点から修行が始まっているらしく、お互いに目で挨拶を交わし合図するだけだった。

さっそく無言の山歩きが始まった。S先生と私は空手の稽古着で古武道の先生は古武道らしい古式ある衣装を身に付け、住職は袈裟を着てきた。

「ええ、何もこんな時、気持ちわるーこの坊主」

もう一人の男は黒いジャージにフードを付けてほとんど顔が見えない。

三十分位歩いて順番が入れ変わるが、私は何処のポジションにいても全て怖い怖いの連続だった。

口に出して言う事が出来ずガタガタ震えていた。一番前だと暗い先から何かが突然やってくるのではないか！。また一番後ろではそのまた後ろから何者かがやってくるのではないかと！。二番目、三番目、あるいは四番目だと前後の人が信じられなくなってくる。もしかしたら前後にいるのは人間と違うのではないか！など、暗黒の山の中で様々な事を思い出しながら歩いていた。

全員が無言で山の中をサッササッサと歩いて行く、全員のペースに遅れまいと付いて行くのと怖さで大変である。緊張に緊張が張り詰めている。歩き出して二十分程が経過した時、山の中で獣が逃げる様な音がガサガサした。そんな中で気の弱い住職が突然「Sせんせーい」

「ビクー」「住ー職、怖いのはわかりますが私語は慎んで下さい」この坊主ほんとに気が弱い。それでも住職か！

歩き出して二時間が経過した。いろんな状況は飲み込めてきたが、

怖い恐ろしい気持ちは相変わらず続いている。しかし、もうしばらく歩き続ければ修行が終わる。下り坂に差し掛かってきた。

真冬で周りは凍りつく様な寒さなのに、汗びっしょりで体がホカホカしている。やがて終了地点が見え、五人がほっとしている様子が見られた。修行が終わった。いやまだ終わっていない。

誰一人として口を開こうとはしない。あれだけ怖がって何度か声を出してしまった住職でさえ話をしようとしなない。これはどういう事だ。やがてS先生が指を指し、百メートル程先に点灯している街灯めざし目で合図した。どうやらあの明るいところへ行こうとしている様だ。

するとフードの男が後ろを振り向き、さっさと今出て来た山の中へ戻って行ってしまった。忘れ物がある訳でもないしどうしたのかなあと
思い、見ていたが、「あっそうか！生理的な用事か」

S先生が引き続き目で明るい方へと首を向け合図していた。

やっと街灯のある明るいところへ来た。四人顔合わせほっとしている。全ての緊張がとれ、皆さんの笑顔がよみがえっている。

もちろん最初に口を開いたのは坊主だった。

「これ食べますか！」といって汗びっしりの顔で、地面に五つのカロリーメイトを出してきた。「坊主、気がきくじゃん。」

坊主の良いところはここだけだった！

私もリュックの中におむすびが入っているが四人分しかない。

そうだ坊主のカロリーメイトをもらえばおむすびは私が食べるのを我慢しよう。

という訳で私もおむすびを指し出した。すると四個買ったはずなのに五個入っていた。間違いなくS先生と四人分確認して買ってきたのに一個多いが、ちょうど五人の修行だったので結果的にOKとなった。

古武道の先生がなにやらS先生に話し掛けている。

「今、用足しに行っているフードをかぶった彼は先生が連れてきたのですか！」 「いや、違うよ、住職が連れて来たのでしょーう」

住職は「フォックス先生が連れてきたのですよね！」

それより四個持ってきたカロリーメイトが五個あるのだけど一体

どうなっているの」と、住職はお寺の本堂に四個だけしかなかったのを
持つて来たという。おかしい事を言っている。我々も四個しか買つて
ないおむすびが五個あり、カロリーメイトも一個多いというのだ。

それより大きな問題はあの得体の知れないフードの男

「顔が見えなかったけど一体何者？」四人とも誰も彼の事を知らない。
誘った人がいないのだ。しかも四人分買った食べ物各々一人分多い。
その後明るくなるまで、得体の知れないフードの男を待ってみたが、
とうとう戻ってくることは無かった。

この話、後日談があり我々が山歩きをする十日ほど前に、山の中で
フードをかぶった男性の変死体が見つかり、所持品の中におむすびと
カロリーメイトを持っていたという。

そこで馬鹿な「住職は思い出したらしい。

「そういえば、その頃うちのお寺でその様な仏を葬った」と言っていた。
その時の仏前のカロリーメイト持つて来たと言っていた。

ゴーストバスター

怖い話が續いて申し訳ありませんが、季節柄もう暫くお付き合い下さい。ある人物に協力してほしいと言われ一緒にお化け退治をした時の話なのですが、その内容とはこの様なものです。

あるコンビニ付近の誰も住んでいない家で、夜な夜な霊が出没して怖いというので退治に行ったのですが、すでに女子高校生ㇰさんに憑依してしまい勉強もできなくなってきました。この家には以前は人が住んでいて、過去に次々とㇰ人も人が原因不明で自殺してしまい亡くなっているのです。

女子高校生のㇰさんは思春期とあって霊を感じる能力がピークに達していて、そのコンビニ付近に来るといつも霊の気配を感じとり自転車で素早く通り過ぎていたといいます。

彼女はいつもそこを通る時に「近寄らないで、こっちに来ないで」と心の中で叫んでいたと言います。ある時家に帰ったら家の中の奥の部屋に怖くて入って行けなくなかったといい、異常な寒さや吐き気そして涙が出る

というのです。

依頼を受けた偽物の霊能者が行くことになっているとの情報を私の知人が聞きつけ、よからぬ厄介なことになってしまっているのではないかと、改めて連絡を受けて私もゴーストバスターにお供する事になったのです。

Aさんの家へ行ってみると、その部屋には掛軸が飾っており、掛軸の中には男と女の二体の霊が入っているのです。男の霊は黙ってただこちらを向いているだけです。私はその前に座ると女子高校生が言う様に、寒さ、気持ち悪さ、そして震えなどを感じ、涙が溢れる様にこぼれてくるのです。

早速、掛軸に入っている霊に聞いてみると何年も前からコンビニの近所に住みついていてその家の住人を色々と大変な目にあわせてしまったといっていました。その女性の霊は自分の住んでいた住所と名前を言ってきたのです。我々はその霊をよく諭してあげて除霊はもちろんさっそく難易度の高い淨霊という方法で帰って頂く事としたのです。

私は心配なので後日Aさん宅を訪ねたら、淨靈の甲斐あって、靈はとても喜んでくれてAさんに力を授けてくれたというのです。でも、Aさんはまだ高校生で勉強を続けなければならない状態なので、その様な力はしばらく使わない様にして勉強に専念して頂くようにと説得したのです。

Aさんも理解し、その後幸せな日々が戻ってきたのです。しかしどういふわけか頂いた能力はその家のおじいさんに飛び火して、冬場の事で今ではおじいさんがこたつに入り、「ああ今日は近所の植木屋さんが来る」とか「明日は良い事がありそうだ」と言っているそうです。

蜂に刺される悲劇

昨日、我が家の敷地内で草刈りをしていた。もう少しで終わるという時に突然前方から二十四匹以上のアシナガ蜂が私をめがけて襲ってきた。

私はあらゆる空手の技を使って対応したが不覚にも五か所を刺されてしまった。白い手袋の上からも指を二本半そでのシャツだったので両方の腕二本、そして肩にも背後から一か所負傷した。

もんどり打って倒れ込んでしまった。体に強い痛みが三十分くらい続いただろうか、話す事も出来ず、ただ涙が出るだけだった。たかがアシナガ蜂なので特に薬も付けないでそのまま治す事にするのも親父譲りの我慢という薬をいつも私は心の中に持っている。

でも、あれから二十四時間経ったが今でも痛みと腫れは残っている。痛さに関してはかなり我慢のできる体に仕上げたつもりだったけど、あんな小さな蜂に刺されるなんて残念でならない。

しかし、もし、相手がスズメ蜂となると話は違う。以前にスズメ蜂に刺されたことがある、高熱と痛みで寝られないことがあった。勿論その時も我慢の薬しか使わなかったけど、今度はそうはいかない。アナフラキアが発生したら命取りにもなりかねない。

大きな蜂の巣は後でキンチョールをかけて処理したがでも、かなり緊張した。西が蜂と言うから西の方へ逃げるのかと思ったら、四方八方に逃げたり落ちたり散々な目に遭ってしまった。私とそして蜂たちが・・・

怖かった話

実際に遇った怖いシリーズ十四 病院の駐車場
病院へ通院したことのある人は経験あると思うが、病院では数時間待たされ診察時間五分という事はしばしばある。困ったものである。

一方駐車場も大変である。診察予約時間の一時間以上も前に駐車場に入らないと車も止めておく事が出来ない。病院で診察する前に倒れてしまいそう。

毎回病院へ行くうちに自分の車を駐車するスペースが、自然と同じ様な所に決まってくる。幸い駐車場が満車状態なのに私がいつも駐車するスペースが空いている。ラッキー
それも毎回毎回空いているのだ。きっと周りの人は私の駐車するスペースを知っていて遠慮している様である。すごく混んでいる駐車場なのに本当にラッキーである。病院に來た人は駐車スペースがないと有料の駐車場へ車を入れなければならなかった。

親父が病に倒れ入院した時も、その駐車スペースはなぜか確保出来殆んど毎回そこへ車を止める事が出来た。色々と看病したが親父の病気もなかなか回復せずとうとう亡くなってしまった。病院では

親父の亡き骸を引き取る為に家族と病院側とで打ち合わせをしていた。

すると院内放送が流れ「お知らせ致します。NO三駐車場に停めてある白い高級乗用車の移動をお願いします」と言うのだ。

今、親父が亡くなって忙しいと言うのに車の移動とはやっかいだなあと思いながら駐車場へ向かった。そして車を隣のスペースに移して戻って来ようとした時、角の部屋が霊安室で、そこへ霊柩車が入って来た。

なにー俺が今まで止めた駐車スペースは霊柩車の入り口だったってか！！！！ 祓いたまえ清めたまえ 祓いたまえ清めたまえ。もちろんあれ以来あそこの駐車場は利用していない。

怖くない写真

先日、神社のグループの知人から怪奇な写真が撮れてしまったと相談されました。早速見せて頂くと、一枚は神社の前に光る物体が写っているのです。何者かがさまよっている様なそれはそれを見るからに恐ろしい写真が写りこんでいるのです。

あまりの恐ろしさですが今回ここで披露してみます。

という訳で怖い写真を撮影者本人から許可を頂き披露させて頂きました。この写真は、とある神社の正面と手水舎を撮影したのですが、神社正面右側に光る白い物体と手水舎の左側の柱の向こうからこちらに向かってくる火の玉があるのが お分かりかと思えます。

確認できない人のためにアップの写真を付け 加えましたが、よく見るとその光は人の左手が伸びてきているのがお分かりかと思えます。

これは一四〇〇年前の、この土地にまつわる武士の強い怨霊が手の形となつて表れてきているのです。



実は嘘です。詳細を知りたい人は私のホームページまで・・・

http://www.page.sannet.ne.jp/s_sakasita/kaikim.html

不幸続きは茅（カヤ）が育つ

風が吹くと桶屋が儲かるというコトワザがあるが私の所でも

「不幸続きは茅が育つ」という名言がある。

世の中は今、不幸な時代へと突入している。

転変地変、異常気象、経済危機、雇用、事件事故、人間世界へ色々なものがマイナス要因として投げかけられている。

こんな危機状況を感じしなさいと自然界に生える茅は、私に信号を送って来ている。

景気も良くて幸せな社会を送っている時は不思議と茅の育ちが悪い。

しかし不幸の多い翌年はなぜか茅の育ちの良いものである。

我が家は毎年今頃になると盆の飾りつけに必要な茅を探す事になる。

長年続いて来ているのだが、近所で茅が収穫できる様な田舎なのに、

数年前の幸せな時期は茅不足で、山間まで探しに出て行った事もある。

ところが震災以降、我が家の近所でも茅は容易に手にする事が出来る様になっている。

御存じの様に茅とはワラぶき屋根、カヤぶき屋根のあの茅である。

神社などで魔除けや祓えを意味する茅の輪くぐりがあるけど、まさにあの茅なのです。去年から今年、新盆を迎える家も今年は茅が簡単に手に入る事がお分かりでしょう。

盆を迎えるのに当たり、今回は真面目な内容になってしまいましたが、ご拝読ありがとうございます。

「不幸続きは茅が育つ」フォックス名言集から・・・

百日紅（サルスベリ）

百日、紅いと書いてサルスベリ

開花の長い事からこの名が付けられたのでしょう。まさに今真っ盛り、私の調査によるとおよそ三か月の開花を楽しむ事が出来る。

家相から行くと持ち家の敷地内に植える木で縁起が良いとされる木は、松竹梅をはじめモチやモッコクの木などが良いとされる。

残念ながら百日紅の木は敷地内に植える木としては昔はタブーとされていた様だ。特に玄関や入口の通路には植える木ではないとされていた。

真紅の花の咲く幹の表面はつるつるとした感触で、あの木登りのうまい猿でさえも滑って落ちてしまうというところからサルスベリとは、よく言ったものです。滑って落ちるという事からも意味嫌われてしまった様なのです。

その後、不幸が起きてしまった。間違いが迷い込んで来てしまったと解釈されて、不幸な出来事をこの木に託し、墓地やお寺の境内等に

多く植えられる様になったと伝えられます。

しかし、近年花の美しさと開花の時期が長いところから一般の家庭でも敷地内に多く植えられる様になり、町を通るとあちこちで見かける様になりました。

病氣の人や、受験を控えている人には聞かせたくない話ですね。
ちなみに私は高校時代、長く咳の出る百日咳というのを患いました。



漢方、山草樹木

この時期になると夏山に登った事を思い出します。頂上を制覇した時の達成感は何とも言えません。達成感と言っても便秘の事ではありません。頂上の祠に手を合わせる時、汗ばんだ体に大きく深呼吸をする時、今生きていて頂きにいるのだという言葉にできない達成感は何とも言えません。

最近では神社での撮影も増えてきましたが、以前は野鳥の撮影が主で、山草や樹木にはあまり興味はなかったのですが、何度も山間へ行く度に山草の好きな人達とお会いする機会も増えて来たのです。

そんな中で私は山草のスペシャリスト達から沢山の知識も頂きました。野鳥の種類が何千種類に対して野草や樹木はケタ違いに多いものです。薬草に興味のある私は色々と勉強させて頂きました。ほんの一部ですが紹介します。

イチヤクソウやセンブリ、また猟師が山の中で腹痛時に皮を剥いて嚙んだとされるキハダ(黄柏)など健胃薬になるもの、あるいは疲れた

体を癒し食べると、また、旅が出来るというマタタビ、そして胆石等に効果のあるウラジロガシ、カキドオシ、浦島草に似ているマムシ草など様々な効能が確認されています。

中には物語として受け継がれているものもあります。

例えば山帰来（サンキライ）語源は諸説あり、猿が捕まってしまう程の棘のある茎が伸びているので別名猿捕茨（サルトリイバラ）と呼ばれ、またその昔病気になり山に捨てられた人が、山中で赤い実や根を食べて元気になって帰って来た事から山帰来と呼ばれる様になったとも言われています。我が家でもずーと昔この葉っぱで饅頭を包んだ記憶もあります。

いずれも漢方薬として使われるものですが、危険な山草や樹木も少なくありません。スズランの根などの様に、中には毒があり、食べてしまうと石垣が人の顔に見えてしまう事があるというハシリドコロ、ほかにも興味はありませんが大麻草やけしの花、そしてこれも興味がないけどトリカブト等・・・ああ、また山が呼んでいる様な気がする。

将来の大物カップ

夏と言えば水泳ですが、ここ数年泳いでないです。

誰もが男子ならば水辺でカップを演じますが、私も少年時代はもちろん自称カップを演じていました。でも、今では泳ぎよりも体型のほうが何となくカップになって来たので自らは言わなくなりました。

そのカップだった頃から、私は事件や事故が起きると真っ先に現場に入り、人を救出したり、救助が来るまでに指揮をとった事が何度もあります。

あれは社会人になったばかりの夏休み、友達と二人して川辺で遊んでいると子供が川に流されて行くのです。急な流れの下を見ると渦を巻いていて、さすがのカップでも泳ぐのが大変な方へと向かって行ったのです。

私は以前にも同じ様な処に遭遇して不幸にも亡くなってしまった子供を見た事もあります。どうせあの子は、あの渦に巻かれて溺れて亡くなってしまうのだろうから仕方のない事だ・・・

とは思いませんでした。私は友達と二人して目と目で合図して一目散にその子供を指して救出作戦を決行したのです。幸い渦にのまれる事なく助ける事が出来ました。岸辺ではキャンプに来ていたらしい両親と周りの人達が沢山見ていました。我々が岸辺に上がるとありがたい、ありがたいの言葉のフラッシュがカップパに向けられ、沢山注目された記憶があります。

「あのおー、カップパさん達のお名前をお聞かせ下さい」

私と友達はこの様な時は絶対に名前を名乗らない事を約束していたのです。

「ありがとうございます。本当にありがとうございます。」

お名前だけでもお聞かせ下さい」

私は仕方なく「将来の大物です」と言って帰ってきました。

帰って来てからあの時、名前と住所を教えておけば良かったとか、せめて電話番号だけでも教えておけば良かった。そうすれば人命救助で表彰されたのではと、セコイ事は全然考えていませんでした。

あれから、ん十年経ち、先日ある夏の思い出という投稿番組で埼玉県の人が、子供が小さい時に川で溺れて、あるカップ達に助けられたと言っていました。助けられた子供は今では立派な娘さんとなり、恋人募集だそうです。助けてくれた二人のカップは名前も言わず

「将来の大物です」と名乗っていたそうです。

よく考えてみると時期も場所も我々と同じところです。ただ違うのは我々は現在大物ではなく、貧弱な小物です。カップの反省点としては、今後カップを演じる時には、せめてもの電話番号とアドレスを教えて帰る事にします。娘さんのためにも・・・

レンゲシヨウマ

自然園では夏から秋へと変わりつつあります。
すでに秋の七草を全部見ることもできます。



忍ちゃん

私が初めて忍ちゃんと出逢ったのはおよそ十年前友達付き合いで仕方なく居酒屋へ行った時に忍ちゃんを紹介された。聞くところによると独身直接話すと、人なつこくて、何となく面白い人で、私もその時正直、友達になろうと思った。

当時の話で忍ちゃんには姉がいて、嫁ぎ先で数年前に亡くなったと言っていた。忍ちゃんの家は親の代で、元々凄い地主で土地も沢山あり、家の敷地も大きくて庭には大きな庭園、街道も長く庭も広くて、裏には大きな竹藪もある。

たまたま高速道路が出来るので、所有していたほとんどの土地が国に買われてしまつて、その直後母親と父親の両親が相次いで亡くなり、可哀想にも不幸なことが立て続けに起きて、とうとう一人になってしまった。

しかし、高速道路への土地売却や両親の保険金、遺産等のすべて受取人が忍ちゃんだった為に一気に六億円も超える大金が入ってきたという。

不幸の後にはラッキーな事もあるのか――

忍ちゃんは勤め先の社長に、

「お金が入って来たので、これで仕事は辞めます」と言い退職したという。その社長は私の知人で、本当なのか聞いたらどうも本当らしい。

特に騒ぎ立てる事もないけど真意を知りたい私は、忍ちゃんに直接会って聞いてみた。すると・・・

実際お金が入って来たという。でもお金が入ったのをきっかけに友達が急に優しくなり、連日来るので怖くなり、四人もの友達と付き合いをやめたというのだ。

私だけは、忍ちゃんと仲良く付き合っていこうと話したらすごい権幕で言われた。

「私の金を狙っているのだったら友達にならない」と・・・

私は「六億が目当てではなく、本当は忍ちゃんの家敷地に生えている竹に興味があるので、タケノコのシーズンだけ友達になってほしい」と言いました。しかし、その後忍ちゃんとは連絡が途絶えたのです。

そして今年になって六月頃突然、朝早く忍ちゃんが我が家に来た。見ると細いタケノコを三本手に持って玄關で立っていた。

朝めしを吉野家で食べて来たと言っていた。大金が入ると食生活も変わってしまうらしい。忍ちゃん。可愛い女らしい名前だけど、忍ちゃん、男性。

ミノムシ(蓑虫)

今年はミノムシが非常に多い。

二週間ほど前には五ミリ程度だったミノも今では一センチ程の大きさになり、沢山増えている。数えてみると一メートル四方にざっと三百匹位いる。

やがてやってくる木枯らしの季節に耐えようとしているのか、

はたまた異常気象を感じて、わが地方でもこの冬は大雪になるのか！

このミノも冬場になると大きいものでは七センチ位にもなる。

オスは早くに死んでしまいメスだけがミノの中で越冬するのか。

早朝、食事前に観察していると、何匹もが細い白い糸にぶら下がり、まるで山岳レスキュー隊の様でもある。その勇士ある姿を見るとまさに本番そのものである。まあ、横になると寝袋に入った、ただの疲れたとつつあんみたいだけど・・・

たかが、ガの幼虫とバカにしたいところだが、実は、このミノは非常に強く、以前にこのミノでバックや財布などを作ったと、ある番組で聞いた事があり、私も以前に小さな財布を作った事がある。

でも今年はこれだけの繁殖数からするとA4ファイルもラクラクに入る
ランドセルだって夢ではない。

そういえば、先日あのシャネルのお偉いさんみたいな人が我が家の前を
通過した。今朝も私がミノムシを観察していたらエルメスの関係者
らしい人と目が合ってしまった。

単に私が男前なので目が合ってしまったのかもしれないが、それにしても
人気ブランドメーカーはすでにミノムシのミノの強さに惹かれて水面下で
動いているに違いない。



はたして何処のメーカーが着手するのか―

ミノは水に強く非常に軽いのでカルティエかも、ガマ口ならグッチ。

やはり寝袋をイメージして、シヤ寝るか、それとも

朝食前だからティファニーか、メスだけの、得るメスか、

悩むなあー・・・

オオスズメバチ

仮面ライダーではありません。

昨日、我が家のパソコン室に一匹のオオスズメバチが飛び込んで来たのです。今年はずかったせいかな繁殖も多いらしくあちこちで見かけます。不覚にも七月には不意にアシナガバチに襲われ、あらゆる空手の技も通用することなく惨敗した苦い経験も脱げきれない昨今、忘れもしません。今回は特に慎重に慎重を重ねた捕り物帳として戦った結果を報告できます。



撮影で山に入ると、蝶やカブトムシ等と一緒に木の樹液にスズメバチが集まっているのをよく目撃します。

こちらから何もしなければまず襲ってくる事はないのですが、それでも撮影中、山中で急降下して襲われた事が二度あります。

その時は刺されずに済みましたが、以前に話した様に、私は過去に一度だけスズメバチに刺された事があります。今回はアシナガバチではなくオオスズメバチです。

アシナガバチは特に薬もつけないで痛さをこらえるだけで治りましたが、スズメバチではそういう訳には行きません。

一歩間違うと、なあくむうくうく

抗体数値が上がって二度目に刺されると危険であるという事も分かっています。アナフィラキシーショックは一度目よりも二度目以降の方が、危険性がかなり高くアレルギーのショックは血圧の低下や呼吸困難等により、最近では日本でも年間四十人以上が亡くなっているのです。

参考ですが、抗体検査は病院で行ってくれます。

普通のアレルギーの検査と同じで、保険がきかない場合は一五〇〇円程度かかります。私はまだやってないけど、たぶん抗体があります。

安心して下さい。仮面ライダーに勝ちました。

写真は臨終時のライダーの顔、体長四十五ミリ針の長さ六ミリ、樹液に來ているのは在りし日のライダー

今回の攻略法は、先手必勝一撃で片付けましたが良い子の皆さんは絶対に真似しないで下さい。

オオスズメバチの冥福をお祈り致します。

マツタケ

山口さんの婆さんから秋の味覚を頂いた。中身は見えないけど白い袋に入り、かなり重い、傍で中身を見るのも失礼なので袋の外からそっと触ってみた。グヴわぁー、凄いい、立派なマツタケこの感触何とも言えない・・・なんだか懐かしい。

山口さんは山が付くけど、山には遠いのでおそらく息子さんが山で採ってきたのだと思う。そんな山口さんには思わず尊敬と親愛の念を抱かずにはられない。

山口さんに「こんな高価なものを頂いて有難う」と言うと

「そんなにも高価ではない」と言う、でも山口さんは我が家よりも高級な生活をしているので高価に感じないのであろう。

私は黙って袋の外から手の感触で数を数えてみた。なっ、なんと十本もある。今年は雨も少なかったので、よくこんなにも採れたものだ。

希少なものに違いない。それも我が家だけではなく他家にも差し上げたらしい。

この大きさと一本一万円としても十万円分もある。

今夜は焼いて食べようか、それともお吸い物に・・・いや、ご飯に炊き込んで・・・心の中で思うとんだか唾液が止まらない・・・

私は山口さんにこの袋の中の秋の味覚、カタカナで四文字かな？と問うと三文字だという、「ええっ！」じゃあー漢字では二文字？・・・すると漢字では知らないという。ええっ！松茸じゃないの？？

山口さんが帰ってから匂いを嗅いでみた。すると最近のマツタケはかなり甘い香りがする。マツタケを食べる前にぜひと思い写真を撮った。この松茸どうもアケビに似ている。



二個だけ食べてみたけど、アケビでもないらしい。熟しているわりには割れていないし、種も大きいし、アケビなら血行も良くなるし、鎮痛や利尿作用もあるし何だろう、グヴわぁー肝臓障害を起こしそう・・・

実は以前から、山口さんだと思っていたその婆さん、本当の名前は山口ではなく、新井さんだという。山口さん新井さんでも誰でもいいけど何なんだこれは、松茸じゃないのか！アケビやムベでもなさそうだし夏が暑かったせいかな、私の頭の中は秋風が吹いている。

我が家に本当の秋が訪れるのは、まだ先の事かも・・・

真夜中の重散歩

タイトルとは関係ないけど我が家から犬小屋までたったの十三歩・・・いつもなら犬の散歩の時間だけど今日は犬の散歩が夜になってしまった。それも友達が農園を経営しているので、夕方伺い、甘いものをご馳走になりながら長い時間話していたら夜になってしまった。

この夏は暑かったせいかな農園には、まだカボチャがたくさん転がっていた。

夜の犬散歩のCコースは訳ありで、いつもならアクシデントに見舞われる。今日はどうかと思ったら何の事件も起きずブログを更新するよと、友達には言ったものの面白い事も何も起きず、スムーズに散歩が出来て無事に家に帰って来た。

すると家の玄関に鍵がかかっている。困った。！！

我が家は高級マンションではないのでオートロックとか、暗証番号とかは無い。どこかの窓が開いていないかあちこちと探したがどこも空いていない。

以前に二階の部屋をあけて出て行った時に同じ様に鍵をかけてしまい梯子を使って部屋に入った苦い経験をしている。今回はそういう訳にもいかない。

家の裏に回ったら一か所明りが点いていて希望が出てきた。風呂場の明りだった。どうも母親が入っているらしく、私は恐る恐る窓をノックしてみた。

すると窓がすぐあいた。えっ！鍵がかかっていないのか、な、なんと玄関に嚴重に鍵がかかっているのに風呂場に鍵がかかっていないのだ！

窓が開いたけど母親は入ったばかりらしくて「ちよっと待ってくれ」と言うえええーっ！今から四十分も待つのか！

しかたなく十三歩先の犬小屋で待つことにした。でも、犬が何度も玄関の方を見るので私も見た。すると、玄関の曇りガラスの内側に電灯が点いて肌色と小さい黒いものが見える。玄関が開くと母親が素っ裸で出てきた。

ララ、ラララー裸婦、高齢の裸婦です。

これでやっと家に入れる。

玄関の鍵をかけてしまった事は仕方ないけど風呂場に鍵がかかってなかった方が問題で母親も、もし、写真でも撮られたら大変と高齢なのに赤い顔をしていた。そんな日曜日と思ったら、なんと今日は月曜日だった。私の頭の中にも鍵がかかっていない・・・

今回の写真はありません。ララ、ラララー

またある日、看板取り壊し

先日・・・とはいっても、もう十年ほど前になる。

我が家の近所に山を切り崩した跡地を分譲地として土地が売り出された。

その一角に、ある日突然〇〇大学建設予定地と書いた大きな看板が立った。

まあ、人口密度や、立地条件からするとこの辺に大学の一つや二つ当然建てられていても良いと思う。私は近所なのでさっそく学生達のために、

アパートか寮でも経営してやろうとは考えてはいなかった。

私が何度か車で通りかかるその場所で、またある日今度は黒い大きな車が数台止まっていてスーツを着た数人の男性が建設予定地の看板の前に立っている。ゆっくり走っていくとスーツを着た両方のグループが相對してお互いに握手を交わしている姿が見える。とうとう契約か建設計画が決まったのであろう。めでたし、めでたし・・・でも、ないらしい。

そんな事も忘れていた、またある日、あのあるはずの建設予定の大きな看板が建ってない。北風の強い所なので風にでも飛ばされたのか！ いやそうでもない。大学建設予定がダメになってしまったのだ。

それから十年後の、またある日、今度は会社の看板が西側と東側に二つも建っている。北風は少々強く当たるけど日当たりも良く場所が広くて会社建設にはとても良い所なのだろう。

見た目にも良い場所なので関係者に聞いてみた。するとこの土地は会社関係だけで、個人には売らないらしい。まあ、一区間何億円もするから当然私個人では購入するなど無理な話ではあるけど。

そして、またある日、二つの看板も無くなっていた。どうやらこの土地では建設計画は上がるものの、現実に建設を実現するのが難しいのだろう。

そして次の、またある日、今度は沢山の産業廃棄物が捨てられている。

まるで世の中を物語っている。このまま何も建設されなければ良いのと思う。

この場所は夕日が綺麗な所なので撮影にも良いし、面積も広いので、ヘリコプターを飛ばす空間としても最高の場所だ。

またある日、ゴミや産業廃棄物がきれいに片づけられ今度は小さな看板が建っていた。四方にロープが張られ「ごみを捨てるなど」書いてあった。

今日その場所を車で通ったら、また看板を取り付けるところだった。
いつまで繰り返し続けられるのであろう。思い切って看板だけを集めて来て
建てればいいじゃん。

看板、取り壊し、看板、取り壊し、看板、取り壊し

真夏の青年

舞台は能登半島である。

旅シリーズや撮影シリーズで未だに解決していない切ない問題であり、一つの楽しい思い出でもある。能登は輪島市から南西に直線で二十km程の所に猿山岬と言う所があり、当時そこへ向かっていた国道から外れ山道を走り日本海の見えるところまで向かって行くのだが、途中でバイクの青年と出会った。

青年は夏休みを利用して四国の高知からバイクで一人で来たという。

今で言うたまさにイケメンと表現するのにふさわしいかなりの好青年である。私が女だったらきつとこんな男性に惹かれるであろう。

年齢は二十歳前後だがイケメンには似合わずボロボロのシャツ、破けた古汚い靴、傷だらけのヘルメット、ガタガタのバイク、何ともこのアンバランスの具合が余計にワイルドさを増している様だった。

彼は気さくに私に話しかけて来て、意気投合した。

「もし、良ければ私の車に乗りなよ、一緒に行こうよ」

彼はバイクを駐車場へ置いて、車に乗り二人で向った。猿山岬では記念撮影をしたり、色々な話を彼とした。彼は私を撮影してくれた。

写真を送ってくれると言い約束もした。もし彼に点数を付けるなら九十六点だ。百点にならないのは、話の途中で二回、私の事を「おじさん」と言っただけだ。

「今夜、何処へ泊るの？」すると彼は「〇〇寺です」と言う

「えええええーっ　〇〇寺！」　なんとそこはお化けの出る寺ではなく、

偶然にも私が昨晚泊まり、お世話になったお寺だった。

彼にはお寺の宿帳に私の住所と名前が書いてあるのでそこへ後日連絡をして

写真を送って欲しいと私は言った。電話番号も書いてあり、宿帳の記録には

ここ数日間で群馬から来ていたのは私だけだからすぐにわかるから絶対に

連絡をくれと言ったら、彼は「わかりました」「宿帳の記録を見て必ず連絡します」と言ってきた。さすがの好青年も九十八点へと点数も上がった。

家へ帰ってきた。

一か月が経ち、二か月が、三か月が、一年が経った。

おい、何の連絡もないじゃないか！　これはきっと彼が宿帳の私の記帳を見ないで帰ったのに違いない。まさか帰りに東尋坊で自殺をする様な青年ではないし、いろんな思い出が私のもとに連絡されてくるはずだ。

一年後、私はもう一度、能登にある〇〇寺を訪ねた。我が家から十時間もかければ〇〇寺まで行ける。今度は私が高知から来ていた少年の住所をお寺の宿帳頼りに調べれば何とか住所が判明し連絡がつくはずだ。

そうすれば当時の彼との楽しい思い出が甦る。

十時間後能登半島に着いた。「えーと、確か、お寺のあったのはこの辺」えーといくら探してもお寺は見当たらない。確かこの辺なのに間違いない。

現代のミステリーか！「消えたお寺」近所にいたおばあさんに消えたお寺の事を聞いてみた。すると、廃業し、お寺のあったところには違う建物が建っているらしい。残念だ。私は神社のグループに所属しているが、神社仏閣でもたまに廃業してしまうところもあるらしい。

とうとうお蔵入りとなつてしまった。それにしても今でもはっきり彼の言つた事を私はまだ覚えてゐる。

「うん、絶対にお寺の宿帳から住所調べて間違ひなく写真送つてあげるよ、おじさん」。これでまた九十四点。今になってみると総合して、たったの八点程度だが

もし、心当たりの人がいたら今からでも連絡がほしい相手が青年ではなく、女性ならどんな事があつても一生探すつもりだけど・・・

インフルエンザ予防接種の日

表題は硬そうだが中身は相変わらず柔らかな内容だ。いよいよ風邪のシーズン到来。

私は世間でいう様に○○は風邪をひかないと言うが言葉通りにめったに風邪はひいた事がないバカかも。でも、予防接種と、これとは別だ。

普段は混む時間帯なのになぜか町医者の特合室では来院者は少なく私を含めてたったの五人 それも私以外はすべて女性だった。

受付「長澤まさみさん、診察室へどうぞ」ええええーっ、どこかで聞いた事のある名前私は見ないふりをしてそっと呼ばれた女性の方を盗む様にしてじっと見てしまった。すると五十六歳位の。ば、中年の女性が入った。世の中には同じ様な名前の人もいるので勘違いしてしまう。

次と呼ばれたのが「大島優子さん、どうぞー」

ええええーっ、今度はAKBかよ！やはり違った・・・同姓同名なのでしよう。よりによって二人も重なるなんて・・・

やはり五十四歳くらいの女性が中に入って行った。

私の番は、次の次受付「鈴木保奈美さーん、診察室へどうぞー」

受付「鈴木保奈美さーん、鈴木さーーん」

受付「鈴木さーん、いませんかぁー？」・・・

すると私の斜め右前の女性が立ち上がって来院者「すみません、なおみです」
受付「あっ！鈴木なおみさん、どうぞー」

私は笑わなかったけど、なんだか私一人が美味しいところを見てしまった様な気がする。受付を責めてはいけない。鈴木さんも悪くはない。

このようなシチュエーションでは仕方ない。私だって間違えたかもしれない。でも・・・私だって顔を見られて福山雅治さーん、て間違われた事は一度もない。
ブログアップしようとした時に飛び込んで来たインフルエンザ予防接種の日。

フォックスヌーボ

我が家にはハニーブラックのブドウ畑がある。量は少なくて家族だけでぶどう狩りをして一日で全部採り終わってしまう程度のもので、毎年夏の終わりの楽しみでもある。

何時行ってもすぐに採れるので時々採るのを忘れてしまい、秋になってシワシワになっていくブドウを発見する事も多々あり、あわててブドウが我が家にある事に気づくのである。

そんなある年、最後に残っていたブドウを全部処理して籠に採り、ひとつひとつを綺麗に拭いて瓶に入れて発酵させた事がある。

インターネットがまだ普及し始めた頃なので作り方等は殆ど調べる事も出来なくて、自己流でやってみる事にした。

我が家ではブドウは初めてだったが、味噌や麹納豆に至るまでいろいろと作った経験はある。

瓶の中を覗くと毎日ブクブクと発酵をしていた。量にすると十リットル位作っただろうか、瓶の横から空かせてみると、何とまさにワインレッドとは

この事なのか、というほどの素晴らしい色合いと透明感を感じさせてもらう事が出来た。

完成した。

私はポートワインというものは飲んだ事があるけどこの様な世界はまだ知らない。今ではブームらしく日本ではソムリエを名乗る人も数少なくない。

動脈硬化を予防したり、抗酸化作用もあるという体に良いとされるポリフェノール、また最近では脂肪細胞の蓄積を遅らせるというピセアタノールという物質も注目されているという。

どんな味がするのかわからないが、ただ私が最初に飲むのだけはやめておく事にした。そんな折タイミングよく姪がわが家にやってきた。

毒見をしてもらうのには丁度いい、早速グラスに注いで飲んで頂いた。

するとすごく美味かったらしく、酔っぱらってしまっただけ欲しいというのだ。ワインづくりは成功した。

あれから二十年蔵に入っているそのワインが最近になって出て来た。
と、同時に個人でワインを作ると法律に触れる事も知りえた。
少量で個人で楽しむのには問題ないらしい

けど、今は作っていません。本当です。

赤城自然園、紅葉

やがてやってくる落ち葉の季節が来る前に撮った。春には芝生の緑、秋の広場も語りかけてくれた。はたしてどの様に彩ってくれるのか出発。自然園では誰もが通る場所、紅葉の広場。シャクナゲの谷も、今は紅葉と化している。春、夏も良いが秋の色もなかなかのものだ。

逆光にカラフルなビーズをモチーフとして使い涙ぐましい努力して撮影しているカメラマンきつと自身のブログにアップするのであろう完成度の高い作品をぜひ見てみたいものだ。
写真が三枚しか出せないのが残念だ。

<http://ameblo.jp/fox1/>



狩猟解禁と腹痛薬

昔から十一月中旬になると狩猟が解禁となる。しばらく前までは我が家の付近でも十一月十五日になると日の出と同時にパン・パンと銃を撃つ音も聞こえていた。しかし現在では山の伐採、開拓 狩猟の制限、動物愛護、気候風土の変動などにより狩人の姿もほとんど見えなくなってきた。

まあ、狩人と言っても、あずさ二号とは関係ないけど。

自然界では動物による作物被害なども大きな問題となつて来ており、同時に生態系が崩れかけているという事も言うまでもない深刻な問題である。

狩人、目立つ帽子をかぶり、分厚いベストに靴背中には銃を背負い、犬と共に猟に出る猟師。こんな猟師も山の中で腹痛を起こすという。

さりげなく話題は腹痛へと変化していく・・・

猟師が山の中で腹痛時に頼りになるのが漢方の木「キハダ」がある。

これは漢方名では黄柏といい名前の通り木の皮を剥ぐと内側が黄色い肌をしていてナイフで簡単に皮が剥がれる木である。

この皮を噛みながら猟を続けていると腹痛も忘れてしまうというくらい効き目のあるものだという。

山に生えているオウバク、オウゴン、オウレン、この三つを含んだ漢方薬を三黄解「サンオウゲ」として健胃生薬を作っているところもある。

私も、いつ狩りに出かけても良い様に、キハダを常に家に持っている。忘れた頃に噛んでみるけどその時は、突然、熊やイノシシが目の前に現れても即、対応できる様な凄く苦さが口の中にいっぱいに広がって来る。

まあ私の場合の狩りは山深く行かないけど、それに持っている銃だって小さな水鉄砲の様なものでにかく逃げ足だけはかなり鍛えてある・・・

不時着、無事着、無頓着

今日は日曜日

確か日曜日にイルミネーション広場でのイベントで子供たちをバルーンに搭乗させると聞いていた。西高東低、強い寒気がやって来ると北では大雪こんな時は我が地方も名物の強い空っ風が吹く。

今朝、家の二階から外を見ていると我が家の前が驚くほど黄色の光が飛び込んできた。あああーっ！

なんと高速道路のガードレールかすめて一個のバルーンが超低空で飛んでいるではないか！これはイベで計画されているコースではない。

危険を感じた私は、早速、我が家の二輪の緊急車両、婦人用自転車に乗り、猛スピードで現地へと飛んだ。私に正義感の溢れている時は寒さも恥ずかしさもない。約三十秒後現地へと着いた。

幸いにも高速道路上への落下は避けられた。乗組員は必死にガスを焚き頑張っているが、どうも風が強くて一度は持ち直したもののやはり無理か。

傾くバルーンをじっと見ていると右の肩がやけに重い。肩に手をやると何と一台のカメラがぶら下がっていた。緊急車両で出動した割には手ぶらではなく、カメラも同行していたのだ。

本来であれば優雅に空高く舞いあがるバルーンタイトルは「ルンルン、バルーン、いい気分」なのに「不時着、無事着、無頓着」に、なってしまった。山形でも航空機がオーバーランしてしまった様だ。空の事故は連鎖する。連鎖、平気さ、大丈夫さ。



写真が動く

これは地元の新聞の一部ですが、最近写真の片隅に「写真が動くよ！」
「スマホで見てね」の表示を見かけることが多くなってきた。

見てみると新聞の写真の部分にスマホを当てると静止画が動画として見えるというものらしい。ふーむ、スマホかぁー、時代が進めば進むものだ。私の友達にセレブの坊ちゃんがあのでスマホを持っているので早速見させてもらった。なるほど静止している画像が動画になってくる。

我々の連絡手段はノロシに始まって、大声、糸電話、学生時代をやっと
トランシーバーが持てた程度。携帯電話はつい最近だ。それがもう、スマホ
スマホとは私の世界ではスマホほっておこうだ。新聞の記事の方は
今回直接関係ないが、それでもすまして掘っておく分けにはいかない。

そのうちにスマホを新聞にかざすだけでスマホが記事の内容を読み取って
語ってくれる。大きな記事が載っているとスマホが大声を出して人間の代わりに
感動したり、事件事故が載っているとびっくりしたり、スマホも忙しくなる

時代がやって来る。

スマホを持っているセレブな坊ちゃんお嬢さんこの画面の写真の部分にスマホを当てると動画に変身しますよ。見てみてください。

鎧を着た人骨が動き出すと本当に怖い。



ゴミステーションの女

先週夕方、わが町のステーションへゴミ捨てに行った。ステーションでゴミ捨て作業していると一人の綺麗な美人女性が車から降りてこちらへ近づいて来る。

ああ、私が男前なのできつとサインを求めに来たのだろう。でも、その日は色紙もないしサインペンも持っていない。ゴミ捨てに来るのに色紙を持ってくるのもおかしい。

すると彼女が「あのおーこの地区の人ですか？」という

「ここはグリーンタウンの人が使うステーションで」

「部外者はゴミを捨てることはできません」

「失礼ですけどグリーンタウンの人ですか？」という。私は「はいそうです」

太古の昔からこの住人ですが」「なんでしたら恐竜に聞いてみてもわかります」とは言いませんでしたが・・・

どうやら私がこの地区以外の人物に見えたらしい。

彼女は「ここは私たちが掃除しているのです」

フォックス「私も順番で掃除をやっていますけど・・・」ということとは、どうやら

隣組の家族の人らしい。彼女「家はどちらですか？」

「私ですか」「私はその先の北久巢です。」彼女「ええーっ！あの北久巢さんですか！」すると彼女の瞳の奥底が「しまった！近所の人か！」という落ち着きのない目が変わってしまった。私もどうやら影まで薄くなつて来ている様だ。

数年前も隣組に嫁さんとしてやって来た人に言われた。

「すいません、ここでごみの捨て逃げては困ります」

「えええーっ逃げませんし、私のステーションです」

まあ、この時は後日「申し訳ありませんでした」と彼女は謝りに来ましたが・・・たぶん同じ様に新しく引っ越して来た人なのでしょう。私は、表向きは静かに対応したけど、頭の中でも間違われた事に対し、煮えくり返りもしないし怒鳴りつけようとも怒りもなかった。しかし・・・

今日もそのステーションに行ってきた。あれ以来人目を忍んでそっと逃げる様に帰って来る自分がいる。

別に悪いことしていないのになぜなのだろう。付け加えると、先日は暗かったので傍に来るまで美人に見えた彼女、よく見たらそうでもなかった。

金神様と姫金神

いよいよ冬至がやって来る。冬至と言えば我々の知っている事は一年の内で最も夜が長く、柚子湯などを楽しむという程度。

まあ期の切り替わりには違いはないけど、この季節になると暦の世界でも神様達が進めまぐるしく引越しを始める時期でもある。私の所へ相談に来る人達の中にも、暦を気にして新年度の歳徳神（恵方）の方位はとか大將軍の方位は、等の話をされる人も時々いる。

金神、姫金神も同様に凶神として恐れられていて巡り金神と言われ、やはり冬至から立春にかけて引越しが始まる。金神様の位置する方位に普請、移転、造作、婚礼等を行うと万物を枯らし死す事を司るとも言われ、恐ろしい存在とされている。たかが暦の世界と言っても気にする人にとってはなかなか侮れない部分があり、厄介なものである。

金神様には唯一、姫金神という可愛い一人娘がいる。可愛い娘のためなら何でも聞いてあげられる位に溺愛しているといっても過言ではないだろう。

凶神と言われる金神様も姫金神も、方位を汚すとそれは、それは、祟りは半端なものではない。

金神様は目が見えない、口も利かず、それに耳も遠い、このため一切人を近づける事すらしない厄介な神様。しかし、愛する娘である姫金神の言う事には聞けない耳を少しだけ開いて聞こうとしてくれるという。

また、唯一娘だけが金神様のもとへ足を運ぶことが出来る存在である。

だからお願いごとのある時には必ず姫金神にお願いして金神様のそばへ行って頂き耳元ではっきりと聞いて頂きお願いして貰うのです。

もし、金神様の方位を汚し、あるいは汚してしまう恐れのある時にはまず、姫金神に相談し、お父様である金神様に取り次いで頂き、正式に物を申す形を作らなければならない。だから姫金神にも金神様同様に丁寧な扱いをしなければならないのは当然の事である。

何となく人間の世界と似ている。ワイロは効かない。村の長老や酋長を

連れて来ても聞き入れてはくれない。とにかく姫金神、様様様を大切にしなければならぬ。

ここで貴方がもし、美しい姫金神に手を出そうものならそれは死を覚悟するしかない。金神様は怖いぞおー

真冬のボタン

栃木の足利フラワーパークでボタンの撮影をした。春には藤の枝が所狭しと紫に垂れ下がる有名な処。シーズンはおつだけど歩いてても歩いてても花木がある。

「面積はどれくらいですか」と受付で聞いてみた。すると東京ドーム六個分あり九万四千haだという。ディズニールランドには東京ドームが十七個入るとは聞いたことがあるけど、どうも計算が合わない・・・
いずれにしろ広いことは事実だ。さっそく入った。

入場料、お一人様百円、ええーっ！ 安いーシーズンには確か一四〇〇円位支払った記憶がある。ボタンの撮影に來たのだが、中に入ると貸切状態。

我々以外にはジジイとババアのカップルが二組 あとは得体のしれない怪しげな女性一人、それに何となく芸術センスの無さそうなカメラマン三人たったそれだけ。春に向けて忙しく草花や木々に肥料をくれる従業員の数の方がはるかに多い。本来であれば藤のシーズンには沢山の來園者がいる。

昼間は雪よけに藁をかぶったボタンしかない程だ。時々蟬梅や満作も目に入るが

春はまだまだ遠い。今の見どころと言ったら、夜のイルミネーション

さぞかし夜のイルミは人で混むのだろうなあー

中央には恋人達向けに星のある大きなツリーの下に誓いの鐘まで用意してあった。

キンコンカンコーンと鳴らそうと思ったがやめた。近い将来、夜のイルミも

撮影してみたいなあー雪が降ったら良いだろうなあ・・・心は春なのに

帰る前にキンコンカンが気になったのでもう一度鐘の傍へ行って誓いの鐘を鳴らすことにした。でも、やはり電気のスイッチは入っていなかった。

カーン



ポリ袋調理法

実は私も料理をする。料理と言っても犬とか猫とかのものではないちゃんとした人間のものを作っている。

先日、朝のテレビ番組でポリ袋調理法を紹介していた。興味があって見ていたがなかなかの良いところがある。

煮物などをレシピ通りに味付けして、あらかじめポリの袋に入れて、それを鍋の中に入れ空気を抜き鍋に火をつけてお湯を二十分程度沸騰させる事により食材が調理されるという。

同じ鍋の中にいくつもの違う食材をポリに入れ、同時に調理する事も可能だという。

レンジの料理などでは食材の組織を壊してしまったり色々となる様だが、

ポリの場合は栄養素など特にビタミン等の蒸発が防げるといい、魚などの煮物でも他に匂いに移る心配もない。また、使う鍋も一つで済み、食器を洗う手間も減り、すでにプロの料理人も研究を進めていて最近ではポリ袋レシピというのがあるという。

肉の表面などは強火で焼くと肉汁が出てしまうのに対し低温で二十分、真空調理する事により、みずみずしさが保てると言い、食材も崩れず味がとつても良いという。

また、油を使わずに調理できるのもヘルシーである。ハンバーグ、サバの味噌煮、肉じゃが、チャーハンなど、こんなのは朝飯前、もともと食後ではおかしい・・・

ポリ袋は調理用で半透明、日本製のものが良いというそこで本日、食材とポリの袋を求めに行った。

食材はそろったもののポリの袋がなかなか手に入らない高温により、袋からポリの材質が流出されても困る。まず高温に耐える事、今では一一〇℃、一四〇℃、一六〇℃と高温に耐えるものはある様だが、探し当てたものは全て日本製ではなく外国製のものだった。ネットで探す方法があったが、スーパーではなかなか探す事が出来ずに専門店まで行ってしまった。やっとの事でたどり着いたのが、日本製のものだった。

食材はそろってポリも手に入った。あとは調理のみ・・・
ちなみに私の得意な料理は何かという質問に関してはあまりにもレパートリーが広いので即答はできません。食材とポリ袋もそろったけど、今日は外食とします。

雷電神社のお話し

カミナリが落ちた場所に神社を建立したという話は少なくない。我が家の近所でも四年ほど前に田んぼにカミナリが落ちた。

田んぼの持ち主は稲が黒く焦げてしまったのにもかかわらずカミナリ様を丁寧にお迎えしたのでしよう。早速しめ縄を張って神社を作ろうかと迷っていたらしく、近所の人と話をしていた。

写真は我が家の近所の雷電神社。歩いて三分ほどの所にある。車で行けば四〇秒もかからない場所にある。



ご存知の様に群馬県は空っ風、カカア殿下に加えてカミナリも多いこの雷電神社のあるところも昔からカミナリが多く、なにせ地名も雷と書いて「いかづち」という処である。子供の頃夏休みになると近所の友達とこの社の中で夏休みの宿題をやったり遊んだりしたものだった。

我が家にはアマチュア無線用にアンテナが建っていて過去に何度もカミナリが落ちた。多いシーズンで一年に三度落ちた事もあった。

記憶にあるだけでもこのアンテナには七、八回落雷している。

カミナリが発生しやすい場所で、しかも落ちやすい通電性を持った土壌なのかアンテナ設置の際も接地抵抗十オーム以下という。

一種の接地工事のできる場所でもあり、避雷針を建てるのにも最も適している場所でもある。だから我が家の付近はオゾンが多いのか！

何もわからない子供の頃には手作りの避雷器を作った事があった。

そこにカミナリが落ちて家の柱が真っ黒こげになった事もあった。

さすがにカミナリの日に風を揚げた事はないけど、あの頃から

私は大丸山のベンジャミン・フランクリンと呼ばれていた。

話がそれてしまったが、それから行くと我が家には何十柱もの雷電神社が建立されて祀られていても不思議ではない、しかし我が家の親父のカミナリの落ちる頻度はもっともっと多かった。こういう場合、親父の神社を先に建ってあげねば・・・

次回の予告は隕石について・・・

隕石

ロシアに隕石が落ちて大変な事態だった様です。ここ最近では天文に関しての様々な事が起きていて隕石も何となく夢ある好印象だったのが結果的には大変な被害が発生したのは残念な事です。

チェリャビンスク州に落下した隕石は十七メートルで一万吨ともいわれていた。あれがマツハ二十ものスピードで飛んで来たらとてもたまらない。

巷ではロシアでの大惨事を回避するためにUFOが追撃、爆破させたものもっぱらの噂も広がっている。久々に地球に最接近した小惑星もすっかり隕石の事故で忘れ去られてしまった。

その昔、我が家の裏にある檜の木にも隕石が落ちた。今回の隕石から比較するとあれはほんの宇宙塵か、飛び散ったかけらだったのかもしれない。

私がいる所から落ちた所までの距離は十m位でした。しかし早朝真つ暗だった闇の空に眩く長い尾を引いてカシャーンと大きな音がしたので今でもはつきりと覚えています。檜の木は神木にすることもなく焦げたまま長い間、幹が裂けていたのを記憶しています。

地上に隕石が落ちるのはそんなに珍しい事ではないと言います。

ソフトボールくらいのものなら日本でも年に二個くらい落ちていると言われます。

我が家の裏に落ちた隕石を希望の人には探してお譲りします。

たぶん一センチ位の大きさかと思います。

そうですね。値段は百万円程度で構いません。

隕石ビジネス、今は超ブームです。

ストリートビュー

ストリートビュー・・・

響きは良いが、これが現代では中々のくせ者・・・最近ストリートビューの撮影する車をよく見かける。昔は我々がアマチュア無線を始めた頃は電波管理局のアンテナを付けた車がウロチョロしていると何かと神経を使ったものだった。そして、ん十年が過ぎて今はカメラとレンズを積んだ車が走る様になった。

一方、現在ではインターネットに端を発し、携帯がスマホが、i p a d が、タブレットが、様々なものが普及し、プライベートもあつたものではない。変わった世の中になったものだ。これからはその先に見えてくるものに注意をしなければならぬのか！

数年前はグーグルアースをDLしてネット上で念願のグランドキャニオンも、ナスカの地上絵も行つて見た。しかし、カルチャーションはこれだけではなかった。ストリートビュー、どの辺まで進んでいるのかと早速自分の住所を入れてそのビューを覗いてみた。

な、なんと隣の家の奥さんの下着が外に干してあり、さわやかな風に吹かれている。その横では農作業をしている婆さんが畑で隠れてウンチをしている。こういう光景はさすがに写り込んではいないが、知人が隣町で路上に車を止め、駐車違反で写りこんでいるとか、アパートの部屋の窓を開けっぱなしにしているとか、思わぬものが写りこんでいる可能性がある。

昔は「人を見たら泥棒と思え」と小学生の頃聞いた。
今は「端末を見ている人がいたら泥棒と思え・・・」

誘惑

我が家の近所には二〇〇m―一五〇〇mクラスの山々があり、サラリーマン時代は、よく野鳥の観察や撮影に行った。

珍しい鳥も多く、初夏にはオオルリやサンコウチョウ、アカショウビンやキビタキ等の鳴き声も山々にこだま

していて今頃だとレンジャクやマシコ類、うまくいくとイスカなども見られる事があった。

毎週、山に入ると決まって同じ場所では会う人もいる。

彼は役所の職員で、山中に群生するランの花を毎週 確認に来ているという。話を聞いてみると良からぬ人達がランの群生地を踏み入れているのか、

ランの花を持って行かぬ様に毎週見に来ているとのこと。

でも、私が野鳥だけを観察しているので、どうやら彼は滅多に見られないランの花を私に見せたいというのだ。

当時私はまだ花に興味はなく群生しているのを見せてもらっても意味ないし、それにそんな凄く珍しい種類のランを私みたいなのが見せてもらって

よいものかと思っていた。彼は何度も私に勧めた。

誰にも言わなければ見せてあげるからと・・・

「私はもし、ランの群生している場所を見たら後で全部採ってしまうよ」とか、「近所の人にランが咲いているのを話してしまうよ」等とジョークで会話をしていた。

また、ある山中ではエビネ、またある処では自然に群生するカタクリ、そして極め付きは岩松が沢山あるから見せてあげるという人まで山の中で出会ってしまう。彼らも口々に絶対人に言わなければ見せてあげるといふ。私は興味もないし、見たくもないのにどうして山男達は話してはいけない事を勧めるのか不思議でならない。一方隣の市では山道に山野草を植えたら一晩で根こそぎ採られてしまった等と新聞沙汰にもされている。

当時は昭和から平成に年号も変わる頃・・・

あれから二十余年が経った。あの頃は野鳥を眺めて上ばかり向いていた。

今では春になると行動範囲が狭くなったのか庭の草花に 目が行く様になって来た。被写体も野鳥から自然、昆虫、草花にも興味が出てきた。

思い起こせばあの時にランの花を見せてくれる人に一度だけでいいから
群生地を見せて欲しかった。毎週通っていたあの山林へも今では足が遠のく
様になってきた。

あの時の人達・・・また山で出会わないかなあ・・・
深い意味はないけど。

アンコ屋の店先

行列のできるアンコ屋・・・と言っても行列ができるのは祝い事や記念日、年末年始などで店先で十人位が列を作り待たされている状態である。

まあ、車が止めにくいけど、幸い待たされている人の流れも良く、わりと簡単に購入することが出来る。白アン、うぐいす、こしアン、粒アンと種類も豊富で中には3kgも多量に購入する人もいるが、私はいつも粒アン五百gほどを買って家に帰る。

犬の散歩途中のおばちゃんもアンコを買いに来た列の中に知り合いを発見したのか、夢中になって話をしている。

犬のリードを長椅子に縛り、手に持っていた犬の汚物も椅子の下の地面において大きな声で話に夢中になっている。

そんな中で人の流れも良く次々と人が入れ替わっていく。

私もやっと車を止めることが出来て店先に立った時、おばちゃん、忘れ物ーっ！と言う声が飛び込んで来た。

すると、数メートル先を歩いていたおばちゃんが急いで戻って来て、慌てて地面に

置いてある白いビニール袋を持って走って行ってしまった。

アンコは五百gだと白いビニール袋に入ってくる。犬の散歩のおばちゃんが地面に置いたビニール袋も白い。忘れ物を持ち帰ったおばちゃんは、椅子の上ではなく下の地面の袋を持ち帰ったのを、私はしっかりと見た。あれは確か犬の・・・

まあ、同じ袋に入り、名前もアンコなら一文字しか変わらないので、私が心配する問題でもないが・・・
でもその後どうなったか知りたい、かなり気になる。

鳥の被害、災難

我が家の飼う鳥、青い卵を産むアローカナ過去には小動物に狙われ何匹も失った。イタチや野良猫、カラスにまで被害を受けている。

最近はそのカラスも我が家の檜の木に巣をつくり朝四時半ごろから私が寝ているのに頭の上でカアカアと私の寝不足のお手伝いをしている。

渡りのジョウビタキも我が家の物置でネズミ取りにかかってしまい、外では鳩がオオタカに追われてとうとう餌食になってしまった。その後の残骸はやはり小動物のエサとなって行った。

一昨年前の春には私が田んぼで草を刈っていたら抱卵中のキジのメスを草刈り機で切ってしまった。あの時は気が付かないで切ってしまった。だからキジの肉は食べませんでした。ごめんなさい。

今度は昨日、我が家の庭にキジのオスが入って来て様子をうかがっている。あるいは仕返しに来たのか！

キジは私がカメラを向けるとポーズをとどころか、なかなか飛び立とうとはしない。きっと大砲を向けられている様な気がしたに違いない。

これから野鳥の季節、新緑と共にホトトギスやカッコウが鳴くのも、もうすぐそこかもしれない。

でも、カッコウもきっと何かをたくらんでいる。

交通安全週間

春の交通安全週間が四月六日より十五日まで始まった。中日の四月十日は交通事故死ゼロを目指す日となった。

私が車を乗り始めた頃は夜の運転の場合、対向車に眩しいライトを当てない様にハイビームでのドライブは極力避ける様にと指導された。確かに対向車がハイビームでは目の前が真っ白になり危険を感じることも多々あった。

あれから何十年か経過して夜の歩行者をはねてしまう事故が増えてきているという。そのために今度は夜の運転はなるべくライトをハイビームにして走る様にと指導しているという。

そういえば先日、運転免許の更新の時に交通安全協会の講習で我が県の運転者は、夜走る時にハイビームにしていない車が多いと言っていた。その時もあるべくハイビームで運転する様に勧めていた。そして道を曲がる直前になってウィンカーを慌てる様に点ける人も多いので早めに点ける様にも指導された。

春の交通安全週間に入るとテレビでも夜の運転はライトをハイビームにして走らせる様にと注意を促していた。歩行者にライトの明りが充分当たり確認できる様にしたい。久しぶりに今日はそんな事を意識しながら運転してみた。それでも夕方、前の車に追突しそうになった。それじゃーだめじゃん、交通安全週間。

桜の品種が分かりません

四月になると我が地方でもあちこちの桜が咲き乱れて見事な春の舞を演出してくれます。

一週間という命の割にはこれほど日本人に最も親しまれている花は他にありません。

我が敷地に一本の大きな桜があります。日本一綺麗で今まさに満開なのです。数多いソメイヨシノに比べて一週間遅れて咲きます。ところが一つ大きな問題があります。

「桜の品種が分かりません」

数日前から、桜の機関にて品種を調べて頂きたく撮影をしてみました。

私が第一発見者なので私の名前をとって「フォックス桜」でも良いのですがきつと正しい名前があるに違いありません。図鑑やネット、写真集で調べると日本には四〇〇とも 五〇〇とも種類があると言われています。

私がやっこの思いで調べた結果十二種まで絞り込んでチェックしているところですよ。お分かりになる方、詳しい方に見て頂きたい。

特徴

開花がソメイヨシノより約一週間遅い。花弁が五枚で色は白い。花弁の頂点は割れている。めしべ一本、おしべ二十八〜四十本くらい満開になるにしたがって花の中央がピンクになる。控えめで優雅、品格がある。日本で一番美しい。



選挙

本日選挙の投票に行ってきた。市長選と市議会議員の補欠選挙だった。市長選に関しては最初から投票する人物を決めていたものの、正直のところ市議会議員の立候補者の名前を見るのは初めてだった。いかに政治に無関心かという事もお分かりだろう。

市長選の投票箱への投かんが終わり、市議会議員の投票場所へと進んだ。おそらく任期中に一人欠けたなどの理由で補欠の人の繰り上げを選ぶのだろうと思うけど二人とも初めて見る名前だった。さてどちらの人を投票して良いものか・・・

私は仕事柄、相手の人が戸籍上の本名を名乗っているのであれば瞬時に、どのような人物か判るのです。今回の場合は男女の二人だった。さて・・・どちらを書いて良いのか二人の名前をじっくりと見た。

一人はワンマンで自分勝手な人物である。今は健康だが、将来血液に関する病気もうかがえる。

金回りは良く、そこそこのお金を持っている様だ。仕事に関しても実力は十分に発揮できると感じられる。

もう一人は素直な性格で、人に耳を傾け人の良さが充分に出ていて何しろ学力も優れ、記憶力がある様だ。日頃の健康にもかなり留意されてしっかり者であり、石橋をたたいて渡り、人の信頼を勝ち取るタイプだ。

さて私はどちらのタイプの人に投票したでしょう。市長選も、もしあの人が当選したとしたら我が市の明日はやはり暗い、候補者たちの名前を見ても明るい未来はあるのかなーと考えてしまった。

棒に振った良い話

先日、東京の知らない会社からメール便が来た。知らない会社なのでそのまま中身は開けなかった。すると昨日、大阪の会社から電話がかかってきた。

「東京からメール便が届いていないか」と

中に特別なメンバーズ会員申込書が入っているとの事。開けて見たら、ジュエリーの会社らしく、色々な宝石類のパンフレットとメンバーズ会員申込書が入っていたのでその旨を伝えてやった。

するとその申込み用紙がどうしても必要だという人がいるので

「そのまま持っていて欲しい」との事。

折り返し、ケイダンレンとかの偉い人から我が家へ電話をしてくるという。

まもなく偉いと言われる人から電話がかかってきた。三十日に我が家へその申込み用紙を取りに来るという。

今朝、また偉いと言われる人から電話が来た。「三十日にそちらへ行く予定だが今、会員の申し込みをしておくポイントが付く」という。まさに今でしょう。

今、申し込みをすればポイント分の前金も頂ける様子。

なんだか私だけに与えられた特別な内容のものらしい。電話の途中だったが、確認のため電話を切らせて貰った。

考えてみれば私もコツコツと貯金して八億円貯まった。だからお金の入って来る話はどういい。なんだか怖い。

労せずしてお金に入る話は怖いが、お金の出ていく話をもっと怖い。

良い話が飛び込んで来たけど、残念だけどお断りした。

私の知っているケイダンレンにはその様な名前の偉い人物はいなかった。訂正、文中に誤りがあり、八億円↓八万円。

火事です 火事です

数年前から家庭に設置が義務付けられた火災警報器、我が家では煙の探知として各寝室と階段に設置して温度の感知として火を使う台所に設置してあります。特に台所にあつては今までかなり活躍しています。

この警報器も最近では蒸気に関してもすごく神経質になってきているのか。鳴る頻度も多くなってきた。勿論それに合わせて鍋の焦げる台数も比例している。昨日、夕食の煮物で長い間、湯気を出していたら働き

ピーピー ピーピーと鳴り出した。

リセットするためにボタンを押したが数秒後に、またピーピーピーと鳴り出す。仕方なく天井から取り外し、手でリセットを試みたが湯気が多いせいかセンサーが濡れてしまった様だ。

電源を落とし、少し休ませてから再度電源を入れたら、すると今度は

「火事です 火事です」と騒ぎ出した。

何度もボタンを調査し、やっと静かになってもらった。

それでも数分に一度、ピーピーピーを繰り返していた。

食事が済んでも時々ピーピー鳴るので、色々考えた末にセンサー部分をドライヤーで乾かしてあげようと風を送ってみた。

「火事です 火事です 火事です」

もちろんの事ですが、どうにも止まりません。

日本が、いや地球上や自然界が変化を起こしている昨今もつともつと大きな警報器が必要なかもしれない。

「地震です カミナリです 火事です オヤジです」

期待はしていなかったのだが二日ほど前から咲き始めて現在の様子。

こうしている間にも次の三株目も花が開きとても綺麗に咲こうとしています。

頑張って咲くユリの花に思わず拍手してしまいました。どうぞユリの花に拍手してみませんか。

拍手、拍手、拍手、そして今日も梅雨日。

ジモティー

最近ではネットオークションへの出品も電気製品の場合はPL法などにより中古製品には出品の制限がある様である。

特に私の場合、趣味で持っていた電気製品。色々なものがあり、処分しようにも出来ない。

完全廃棄にしてはまだ使えるし、もったいない。まだまだ使いたい人がどこかにいるはず・・・オーディオ、オーブン、無線機器などは売れないヘリコプター等は五台も所有している。しかし・・・

最近まで聞いたことがなかった。ジモティー・・・無料広告の掲示板。直接手渡しが出来るとなれば、差し上げたり譲ってあげたり出来る便利なサイトこれを見逃す手はない。

私は若い割には、それでも五十、六十年代のラジオや真空管のアンプ、チューナー等、我が家の蔵の中に沢山所有し眠っている。

いよいよ彼らがジモティーへデビューする。

電気製品だけでなく、無いもの以外は全てある。

<http://jimmy.jp/select>

土用の丑の日

今年はウナギが高いという。撮影の帰りに信号待ちをしているといつも、ひつまぶしの看板が目につき、そこを通る度に洒落たお店の前で鼻をクンクンさせて走っていたものだった。

ひつまぶし、確か素材はウナギのはず関西方面ではよく聞くけど、関東でお店を目にするのは初めてである。ネットで調べてみたら、関東でも最近お店も増えている様である。

土用の丑の日を目の前にして考えてみた。高価だったら違うものを食べてあきらめ、そこそだったら思い切って食べようと・・・夕食には早いが、お店の前で車を止めた。井物のお店にしては意気な感じがする。

車から降りて暖簾を見た。よーーく見た。

そしたら、「ひつまぶし」ではなく「ひまつぶし」(暇つぶし)と書いてある。

どおりで喫茶店みたいだった。結局、生協で国産のものを買った。

とんだ暇つぶしだった。

セミの脱皮

セミが腕立てをしているではありません。また、ぶら下がりが健康法でもありません。もちろん脱色しているのでもありません。



我が家の付近で幼虫を見つけたのです。外で見つけて撮影のために家に招待しました。そこで脱皮して頂こうと思ったのです。

セミは脱皮時に外敵に狙われないために主に真夜中や早朝に脱皮するのです。

今回も夜中の撮影になるのではないかと徹夜を覚悟して窓に止まって
頂いたら な、なんと

夕食後に覗いてみると、もうすでに脱皮が始まっていたのです。

長い間、土の中での生活のわりには脱ぐのは早くせつかなセミもいるんですね。
カメラにストロボも用意する間もなく覗き込むと、何ともセクシィーな感じで
薄白い柔らかな羽を開こうとしていました。

まさにセミヌードの原点がここにあったとは・・・

今回は寝る前に撮影できたので睡眠打破です。

リターンライダー

バイクから一時離れていた人が中高年になって再び運転を始める

「リターンライダー」が増えていると、今朝の朝刊で紹介されていた。記事を見た時に、なぜか私の血も騒いだ・・・

春になり新芽が出る頃、海や野山で真夏の風を爆音と共に真正面から受け、あの頃は良かった。今でも連休の朝方、我が家の前の高速道路もブルン・ブルンのバイクの音が響き渡る。

アメリカンスタイル、ヨーロッパスタイルどちらかというと私はスポーツタイプが好きだ。後輩がフォックスさんの免許は大型？中型？。確か私が十六歳で自動二輪を取得した時にはその様な免許の種類分けはしていなかった。まだ一〇〇㍉を超えるバイクには乗った事がない。

ああ、新聞の記事の様にリターンしてみたいなあー

血が騒ぐのは高血圧ではなかったのだ。とはいっても安全が一番、若者に続き、中高年でも事故率が高いという。

特に中高年では運動能力が低下と、嫌な事が書いてあった。
私は若いのでまだ運動能力の低下はないけど。

今年に入ってから事故といえば、昨年に続き蜂に刺されたくらいだ。あつ！
そういえば雨の日に二度ほど自転車走っていて溝に落ちた事もある。

まずは自転車をマスターして死ぬまでに、もう一度バイクに乗ってみたい。

バイクの先に素晴らしい未来がある様な気がする。

まさか、天国がなければいいんだけど・・・

抜歯の日

先日食べ慣れない物を口にした時、歯が揺らいだ。そんなに固くもないものなのにどうしてか・・・

やわらかヒレカツ和膳、やはり貧乏人の歯には無理か。三日程前から歯の痛みが出てきた。揺らいでいる。大概の痛みは我慢できるから今回も我慢していたが、あまりに揺らぐので、思い切って抜こうとした。グキーンという音と共にもつと揺らいでしまった。

予約はしてなかったが、本日緊急で歯医者へ行った。私の主治医はすごい美人の独身女医、T先生。ところが予約なしで、緊急で行ったせいか、手続き待ち時間などかなりの時間を使ってしまいおまけに主治医のT先生の名前もボードにない。

T先生は今日が担当日ではないのか、仕方ない。これだから予約なしで緊急で行くのは嫌だった。

「フォックスさん中へどうぞ」幸いにも緊急扱いで受付が早くに呼んでくれた。すると治療室にはなんと、T先生がいるではないか。ラッキー

先生の顔を見るやいなや、今にも抜けそうな歯の痛みが急に無くなった・・・様な気がした。

先生の治療は素晴らしい、痛くもなく優しく丁寧、以前に治療中、たまたま先生と目と目があった時に私は先生の瞳の奥底にピンクのハートがあったのを見た様な気がする。気がする。

抜歯の後処理も良く、痛みもなく本当に素晴らしいさすがT先生ならではの処置だった。万が一に備え、痛み止めと抗生物質を処方されて歯医者さんを後にした。

薬局へ向かう途中、何となく処方箋に目をやると何と、T先生いつの間にか苗字が変わっている。ええーっ！ 先生どうしてーどうしてー

その後、私の歯は急に痛くなり、薬局で薬を貰ってすぐに痛み止めを飲まなければならぬ程の激痛が再びやってきた。痛いーッ！

ウドンゲの花

凄く珍しいウドンゲ（優曇華）の花が咲いた。今回も我が家の神社の社で発見した。吉兆だ。

ウドンゲとはクサカゲロウの卵で、通常は夏場に音符の様に草木などに卵を産み付ける。しかしその卵が寄り添って花になるのは現実でも非常に珍しく、白は吉、黒は凶と 解釈される。

著書でも紹介したが、私に霊能が目覚める前後にも二度ほど咲いた。それも社に・・・

目にしたのは今回で三度目である。前回花が咲いたのを見たのは確か十八年前だった。

広辞苑によると三千年に一度しか花が咲かないと言われ、ウドンゲの花が咲くと金輪王や如来が出現するとも言われ、とても珍しい物の例えとされる。

インドでは想像上の花、優曇波羅華「うどんはらげ」うどんを腹いっぱいではないが、こう表現される。

三千年に一度しか花が咲かないと言われるので我が家では過去に三度花が咲いたのを見たからこの計算で行くと
私は九千年以上生きている事になる。ふむ。



N H K のど自慢

日曜日が来る度に我が家の八十七歳の母親が内緒でN H K のど自慢へ出場したいいつも言っている。何も出来ない私は、そんなら冥土のみやげに、と考えていたが、毎週確認する度に四国や北海道となかなか地元へは来てくれない。

そんな中、来月、地元のわが県に来る事になった。テレビでは何度も募集のお知らせが流れていた。富岡市は我が家から二時間もあれば行ける場所だ。早速、往復はがきで申し込みをした。しかし、母親が出るなら私も出てみたいと思ひ私も申し込んだ。

私の兄弟が会場へ出向き、観覧したいというのでそんなら往復はがきで観覧用に彼らの名前を借りて応募してあげようとしたら、なんと私の妹も出場を希望して、すでに往復はがきで申し込んだという。なんと親子三人が別々に応募した事になる。

考えてみれば母親の兄も何枚ものレコードを出して昔から、のど自慢や、歌には興味があったらしい。妹も、結婚前は芸名を持って歌手をしていた。

そういえば私が三十七歳の頃、家族や、個人で何度ものど自慢の番組や地元でも

歌った経験がある。三十七歳の頃というところから二年前かあー？ ふむ

楽器の弾けない私はせめてもの歌うしかないと思いついた頃からは歌うのは好きだった。

世間では私の事を群馬の福山雅治とか、群馬ジャンプのヨシキとか、山嵐の翔くんとか、ギターを持たない布袋とか、踊れない中井君とかもう、言いたい放題、何を言われてもいい。

中井君と言ってもスマップではない。それもミキプルーンだという・・・曲名？ 十八番、吉幾三の津軽平野でどこが悪い！

追記、返信用の手紙が送られてきた。二枚目の画像。



梅雨時の一コマ

現在の近況としては、後程記述するが母親の介護と梅を漬けたり、芋を掘ったり、スイカを作ったりと 梅雨時ならではの湿っぽい毎日を経過しています。また、カラオケではTUBEの ♪あー夏休み♪を完璧にマスターしたから、後は、真っ赤な太陽の日差しと、青い海と、梅雨明け次第です。

その母親ですが、先日立て続けに三度ほど倒れてセカンドオピニオンとして診察して頂いた先生から紹介状を書いて頂き、大病院で検査する事となり朝早くにその大病院を受診する事にしました。

待合室で待っていると母親がトイレに行こうとして立ち上がるので、私は女子トイレの外まで付いて行き、外で用を足すのを待っていたのです。

やがて十分が過ぎ、いくら排尿障害があってもさすがに十分は長く感じるのです、この頃から気になり、女子トイレに入って行く訳にはいかないので外でトイレの入室が無くなるのを見計らってそっと声をかけたのです。

「大丈夫ですか？」　すると「大丈夫だよー！」

それから三十分が経過、しかしこんなに長いのではもしかしてだけどー
凄く大きなウ○コなのかもいや、そんなはずはない。小さいのを家でしたはず。

すると突然、係の男性が女子トイレにダダダッつと走っていく姿が見えた。
えっ！母親のほかに誰かまだトイレに入っていたの！　私も心配なので便乗して
もう一度母親に声をかけ安全を確認した。どうやら誰かがトイレの非常ボタンを
押したらしい。

あれから五十分が経過した。待合室では母親の名前がすでに五回呼び出されて
いる。しかし母親はまだトイレの中にいる。そんな中でも女子トイレでは非常用の
ボタンを誰かが押し続けて助けを求め、係員が何度もトイレに飛び込む姿が見えて
いた。私も同じタイミングで母親に無事を確認していた。

ふと、私が母親に、もしかしてだけどー「非常ボタンを押したの？」と
聞いたら押したという。

その時初めてトイレの鍵が故障して中から出られないという事がわかった。
係員がドライバーを持ってきてトイレの鍵を壊してやっと出られたのが午後だった。
助けて欲しいと三時間前に言ってくればこんな大変な事態にはならなかった。
倒れたことよりも認知症の方が重症だという事がよく分かった。



もしかしてパートⅡ

連日の暑さで、さすがに今日は汗も枯れてしまったかと思いきや、とんでもない、まだまだ朝から汗が流れ続けている。毎日が暑くて、もし私が魚だったら熱帯魚に、氷だったら空気に・・・なってしまうそう。

これから買い物に出かけると、母親に言うと、暑いせいなのか、とうとう死ぬ前に一度でいから冷やし中華が食べたいと言われた。私はどんなに暑くもよほどの事がない限り冷たいものは真夏でも控える様にしている。でも、この暑さだと分かる様な気がする。さっそく、買い物メニューに冷やし中華を加えた。

確かコンビニでも冷やし中華があった気がしたので、早速帰りに寄って冷やし中華を手にした。コンビニでは外国人の労働者を雇ったばかりなのか新たな制服を着た外国人が店長の指導を受けていた。そして私がレジに向かう頃には外国人もレジに立って手さばきも良く、いっぱしのレジ業務をしていた。

冷やし中華三〇六円、税込み三三〇円。財布には細かいお金が三百円しかない。しかたなく千円札を差し出すと、「イラッシャイマセー」外国人がレジでバーコードを「ピー 二百八十円デス」

私は素早く千円を奪い取り三百円に変えて出した。

「アリガトウ ゴザイマシタ」

外国人の新人店員さんはいいね。税抜きでピーをしてお財布にも優しい。

それにしても二百八十円は安い。私はその外国人に思わず信頼と尊敬の念を抱いてしまった。

家に帰り、レシートを見たらなんと、本日は五十円の値引きをされている日だった。なあーんだ。猛暑の日、頭の中も猛暑になっていた。こんな日は買った生卵も、よく見てみないとゆで卵になっているかも・・・



子猫の悲劇

あらずじ

捨て猫二匹が目撃される。川堀りの深いところで泣いていた。助けようと手を差し伸べるが逆に襲いかかり手の届かぬ水の中へ二日目の今朝も泣いていた。しかし一匹は死んでいた。その後、他の一匹の姿もなくなっていた。涙。

本文

二日前、あれは真夜中の二時三十分ごろ、丑三つ時、蒸し暑い深夜に、猫の鳴き声が、わが田舎に響いた。地獄耳の私がじっと耳を澄ますと、いくら魔物とはいえそれは我が家から三百三十メートル離れた所から聞こえて来る子猫の鳴き声だった。

朝になり、いつもの様に犬の散歩に出かけた。すると一メートル以上もあるコンクリートの川の溝の下の方で二匹の小さな猫が中で泣いている。助けようと手を出すと牙を向けて拒否され逃げてしまう。また、散歩中の我が家の犬のサブちゃんはその猫を食べたいと言っている様な気がする。

「サブちゃんこれは食べ物じゃないから」と諭し言い聞かせた。

犬の散歩中に捨て猫を目撃することはよくある事。それも必ず複数いるのだ。。
飼い主も猫を捨てる様なら飼わなければ良いのに、猫は避妊の方法も知らないのだ。
世の中には猫の好きな人は犬の好きな人よりも多いらしい。そんな私も犬を
飼っているが特別な愛犬家でもない。でも飼っているからには責任も必要である。

同じ所を今朝も散歩した。するとコンクリートが剥され金枠も外され一匹の
小さな猫が道端で泣いていた。誰かがあんなに重いものを重機で持ち上げてくれ
たのか！傍には高校生が一人いて、その猫の横で私の方を向き私にこの子猫を
助けて下さいと、瞳の中で訴えていた。私もう一匹いたはずだと言うと高校生は
溝の中を指差した。深い溝の中を見ると・・・なんと・・・なあくむうく

助けられた一匹の子猫に早速牛乳を買って来て、飲ませてあげようと現地へ
行ったら何と、今朝いたはずの草むらは、すでに機械で草を刈られてしまい姿がない。
なあくむうく

悲しい出来事なので早く昇天する様今回は遺影もない。高校生もたぶん猫を
発見して今朝は遅刻して行ったと思う。

ちなみに高校生は女子高生ではなく男子だった。

水道管の破裂

我が家は三軒だけ五百メートル程孤立した処にあり水道管も三軒だけのために地下に五百メートルの長さ引かれている。何十年も前に工事したので、いつ破裂してもおかしくない。前回の破裂の時には私が発見して水道局へTELして関係者に工事をして頂いてパイプの破裂を修理してもらった。

まあ、電気やガスの支払いが無くなると止められるというけど水道料金は支払わなくてもすぐには止まらないと聞いたので安心だけど、工事が早いのもそういうことなのか！

私が道路の表面が濡れているからと言っても水道局はなかなか信じてくれない。この時期、田植えの後なので田んぼから道に染み出ているのではないかと担当者は疑っていた様子だ。また、誰かがここへ水をこぼしたのではないかと疑う始末。

そんな中で市が修理用に持ってきた工具の中に水脈を見つけるダウジングがあるのには笑っちゃいました。私も持っていますですが、確かに川などへ持って行き水のあるのを感じると、ちゃんと開いて動いて教えてくれます。

次に出てきたものは地下の水流の確認音を聞く為の吸音マイクとヘッドセットである。田舎の静かな場所だと地下で水漏れしているとちゃんと音が聞こえるというのだ。

そして今朝、違う箇所で水道管が壊れていると聞いたので、また前回の様な面白い工具が見たくなって係員と話をした。私が

「間違いなく水道管の破裂ですか？」「川の水が染みたのでは？」

水道局「いや水道管に間違いありません」「今は便利な機械があつて」

「アスファルト上に湧き出ている水に、塩素が含まれているかチェックをするだけで、すぐに水道管が破裂か分かります」

ふむ

前回の時から、まだ一年くらいしか経っていないのに凄い。

次回の時にはどんな工具が出てくるか楽しみである。地上から地下の水道管を見ることが出来る双眼鏡。いや

地下を掘らなくも水漏れの直せる工具かも・・・

百日紅(さるすべり)Ⅱ

緑の会発足当時、平成元年に地元の山を中心とした緑の会を結成しました。発起人四人、会長と登山家、神社の持ち主、そして私、その後会員は五百人以上に増えていきました。

会長は地元の山や歴史、草花、樹木にとっても詳しくて、私が毎週、山の中へ鳥の撮影に行く度にお会いしていました。

同じ頃、毎週のように二四〇メートルもの山へ時間をかけて歩いて登って来る人がいたのです。歩け歩けと言うグループを引き連れ早足で登って来るのです。聞くとヒマラヤをはじめ、数々の登山経験のある第一人者だったのです。

後に彼女は山のルート、マナー、地図、地形を担当する人となるのですが、三人でほぼ毎週、同じ山の山頂で会って話をしていると、山頂の神社の持ち主の神主さんがいつも我々にお茶を入れてきて四人での会話となっていくのです。

山頂の新田神社の神主さんは市内に八つもの神社を持っていて、山頂では我々三人に話の場所として社務所を毎週貸してくれていました。

私は副会長で野鳥、写真の担当として会員登録をし、自然保護を含め活躍してきました。今年の様な暑い夏になると四人で金山の頂上で緑の会を作ろうではないかと話し合った時の事を思い出してしまいます。

その山では鳥三百に対して草花、樹木が三万と、ケタ違いに覚えなくてはならない事が沢山あったのです。自分で言うのもなんですが、私は野鳥に関しては知らないもの以外はすべて知っています。

しかし、草花、樹木では全てが一からの出発だったのです。そんな中で知り得た面白いエピソードのある内容をこの場でシリーズ化してブログって披露してみたいと思います。シリーズ一に関しては以前のものと一部重複する部分があります。

シリーズー 百日紅(さるすべり)

三か月以上も長い間この季節に花を咲かせる園芸樹があります。名前の通り百日もの間、赤やピンクの花を咲かせるという意味から百日紅の名前が付けられたと言い、同じ和名でもサルスベリと言う名前も持っています。

ミソハギ科を代表する樹木ですが、以前は日本では非常に少なく園芸樹としては

二％程度しか見る事が出来なく、それも墓地やお寺の境内などしか咲いていなかったのです。しかし、昭和から今に至っては二十五％に至るまで各家に植えられる様になって来たと言います。訳あります。



私の所への相談に来る人で、家相や家に植えても良い木々などを相談される事があります。家の敷地内に植えても良いとされる縁起の良い木には、松竹梅を始めモチ、モツコク・・・等ありますが、百日紅(さるすべり)はランクインしていません。

サルスベリは木の表面が非常につるつるしていて、あの木登りのうまい猿ですら滑って落ちてしまうと言うのです。人々は猿も落ちてしまう何かの間違いだと表現する意味で間違いが起きてしまったが二度とこの様な不幸は起きない様にと、墓地やお寺の境内に間違った事を木に託すため植えられていたと聞いています。

そういえば子供の頃に墓地やお寺にあったのをよく見かけたものです。

近年になり、その花の美しさと三か月もの花の長生きを感じさせるがあまり、サルスベリと言うよりも百日紅の名前が優先し、今日の夏の空に美しく輝いているものと思われます。

山帰来(サンキライ)

シリーズ二はサンキライです。中国では土伏苓（ドブクリョウ）と言う名前が付けられ漢方薬としても使われているもので、語源もいくつかあり毒消しが必要な人が山に入り実を食べて解毒を行ったり利尿作用や体質の改善に使われたと言われます。

茎には刺があり、色々な植物に絡み付いて成長する様です。トゲのある茎を伸ばして成長を続けてこの中に入ってしまうと猿でも抜け出すことが出来ないということから別名、猿捕茨（サルトリイバラ）と言われることもあります。

正月やクリスマスなどの生け花やフラワーアレンジメントとして使用されるのもこの赤い実なのです。手元に写真がないのが残念なのですが、誰でもどこかで見た事のあるものだと思います。

一般では山に入り遭難をした人が滋養強壮の効果のあるこの根を食べて帰ってきたと伝えられて来ていますが、実際には梅毒にかかった人がこっそりと山の中へ入り、この山帰来を食したとも言われています。そのため再び山に入り、解毒をし、

そして下山をし、また山に帰って来るといふ事からこの山帰来の名前が付けられたと言われています。

会長さん何度か食したことがあると言っていました。なお、この話は会長から直接とても詳しく丁寧に教えて頂いたので、たぶん会長は経験者語るとして当時、梅毒だった様です。会長がこの記事を読んでいる事を望みます。

木天蓼（マタタビ）

また、この季節目にするのが山の中に白く葉っぱが見えるものに マタタビがあります。葉が白く見えるものにはウラジログシとか季節はすでに過ぎましたが、先日ニュースで山に飛行機が落ちたのではないかと勘違いされたヤマボウシの花も白く見えます。

マタタビは別名では夏梅と呼ばれることもあり、鉄砲玉の様な細長いものと、成長段階でアブラムシが寄生し、虫こぶが出来てしまう、虫えいというタイプに分かれてしまうのです。虫えいは鉄砲玉と違って丸く虫コブがついてしまうのです。呼び名は虫えいの他にも、もくてんりょう（木天蓼）と呼ばれる事もあり、漢方ではこの虫えいの方が喜ばれて効果がある様です。

猫にマタタビと言うほど猫が大好きだということは有名な話です。マタタビの匂いを猫に嗅がせると、どんなネコでもごろにゃんと 参ってしまいます。とても興味深いものがあります。

ビタミンCも多く含み、抗酸化機能や活性酸素除去、血圧上昇抑制、滋養強壮効果があり、酒につけて飲む人もいます。

読んで字のごとく「マタタビ」これを食す事により昔の旅人が疲れをほぐし、また旅に出る事が出来るという事からこの名がついたとされています。

弟切草（オトギリソウ）

ある鷹匠がいて、鷹が傷ついてしまった時にキズ薬として鷹匠は山にある草を鷹に秘薬として使っていたそうです。たかが傷です。されど鷹がキズです。

この薬草は今まで誰にも口外してなくて鷹匠だけが知っていた薬だったそうです。

ところがある日の事、この秘薬の事を鷹匠の弟が薬草の効果を他人に話してしまったというのです。兄である鷹匠は弟の行為に怒り、激怒して刀で弟を切ってしまったという事です。この時に弟を切った血がこの草に飛び散り、

弟切草（オトギリソウ）の名前が付いたとされています。これも漢方で薬師草（ヤクシソウ）とか青薬（アオグスリ）などと言われている様です。

他にも千回煎じて飲んでもまだ苦く健胃に効果があるというセンブリ。また、獵師が山中で急に襲われる腹痛防止にキハダとか、イチヤクソウ。

樟脳（しょうのう）などの防虫剤の原料とされるクスノ木。家の敷地内に植えるな！とされるビワの木。肝臓に良いとされるメグスリノ木。松の木のあるうちには植えない方が良いとされるツゲの木。魔除けのヒイラギ等など山草や樹木を勉強させられました。

おわりに

現在世の中で事件事故、自然災害などがめまぐるしく発生している昨今
せめてもののブログの世界では、身の回りの楽しいものに目を向け
表現し、発信をしていきたいと思います。

くだらない内容なのに最後まで読んで頂きありがとうございました。

フォックスの撮影日記Ⅱ

〒三三七三〇〇七三 群馬県太田市緑町八七五 坂下進一



二〇十四年 八月

フォックス

